

説明会場で投函いただいた質問への回答

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月8日	鹿島文化ホール	未確立な部分があるのに計画を進行している印象を受けました。強引なやり方としか思えない計画はもう少し慎重になられたら良いと思います。	資源に乏しい日本においては、国の方針として、原子燃料サイクルを確立して進めることとしています。 私ども原子力事業者としては、電気事業連合会内に設置したサイクル推進タスクフォースによる支援を継続するとともに、技術面、マネジメント面で、引き続き日本原燃をオールジャパン体制で、全力で支援してまいります。
7月8日	鹿島文化ホール	エネルギー資源の乏しい日本においてリサイクル出来るプルサーマル計画は重要なことだと思う。 原発を稼働している以上、それに伴い出来る物を再利用できるならばリサイクルすべきであると思う。 私達住民は原発と共存している。このことを念頭に安全で安心、そして安定供給をのぞみたい。 私達は中電さんを信頼している。それを裏切らないでほしい。誇れる企業ありつづけてほしいと願っている。	プルサーマル計画の推進は、「エネルギー資源の有効利用」「利用目的のない余剰プルトニウムを持たないという国際公約の履行」「高レベル放射性廃棄物の減容化・有害度の低減」などの観点から極めて重要なものと考えています。 資源に乏しい日本は、そのほとんどを海外からの輸入に頼り、自給率はわずか16.3%（2024年度実績：経済産業省）です。日本にとってプルサーマルは、長期的なエネルギー資源の確保、すなわち、皆さまに安定して電気をお届けするためにも、必要な取り組みの一つであると考えています。 引き続き、当社の取り組みを地域の皆さまに分かりやすくご説明し、ご意見も賜りながら、安全文化の醸成、発電所の安全性向上に努め、皆さまに信頼いただける発電所を目指してまいります。
7月8日	鹿島文化ホール	国策として原子力発電事業を行う中で過去に様々なトラブル、隠ぺいなど国民が不安になる案件がありました。 日本は資源がとばしい中、エネルギーの有効利用は重要だと認識しています。 国内外の方々に安心して暮らしていただけるよう、細心の注意を払って、点検、技術の進展に努め、信頼を得られるようにすることが大切であると改めて感じました。	過去の不適切事案においては、地域の皆さまをはじめ、多くの皆さまにご心配をおかけしたことを改めてお詫び申し上げます。 改めてコンプライアンス最優先の業務運営を徹底し、同様の不正を起こさない、起こさせないという強い決意をもって再発防止対策を着実に実施することはもとより、引き続き、当社の取り組みを地域の皆さまに分かりやすくご説明し、ご意見も賜りながら、安全文化の醸成、発電所の安全性向上に努め、皆さまに信頼いただける発電所を目指してまいります。
7月8日	鹿島文化ホール	我々地元住民としては2029年にOKをした訳ですので、中国電力さんにおかれましては、様々な困難があるとは思いますが、早期のプルサーマル発電をお願いします。応援しております。	今後とも、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組みながら、安全確保を最優先にプルサーマル発電の実施に向けた取り組みを進めてまいります。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月11日	くにびきメッセ	使用済MOX燃料をサイトから搬出するための冷却期間はどの程度か。 (90～100年との指摘があるが)	使用済MOX燃料は、使用済ウラン燃料と同様に、再処理工場において再処理することとしており、再処理工場に搬出するまでの間、島根2号機の燃料プールにて安全に保管管理することとしています。 使用済MOX燃料と使用済ウラン燃料の発熱量の差はわずかであり、燃料取出後1年程度経た後の発熱量はいずれも十分減衰しています。このため、使用済MOX燃料の保管管理の方法は、使用済ウラン燃料の保管管理の方法と変わるものではなく、また、燃料プールでの冷却期間に大きな差はありません。 なお、具体的な冷却期間は、使用する輸送容器の仕様や燃料の燃焼条件（燃焼度・発熱量など）や再処理工場に受け入れるまでの冷却期間により決まってくるものです。
7月11日	くにびきメッセ	MOX燃料の使用により「安全性は低下する」ことは、原発の事故のリスクが高まることを意味する。これは、関係自治体と結ぶ安全協定前文「周辺自治体の安全確保が全てに優先するものであることを確認し、この協定に誠実に履行するものとする」に反すると解しますが、中電はどう考えるのか。	MOX燃料は、ウラン燃料と比べ、性質にわずかな違いはありますが、適切に設計・評価に反映することで、ウラン燃料と同様に十分な安全性を確保できます。島根2号機の新規制基準適合性審査（原子炉設置変更許可の審査）においても、MOX燃料が装荷された状態で重大事故が発生したことを想定して評価を実施し、基準を満足することを国（原子力規制委員会）に確認いただき許可を得ています。
7月11日	くにびきメッセ	高浜4号機がMOX燃料を当初、18体装荷していたが8体に減らしたのは、関電は「異常燃焼が起きた」ことを言っているが、どのような事故であったか詳細な報告を求める。	一部報道において、高浜4号機のMOX燃料に関する報道がされていることは承知していますが、他社事例であり詳細は承知していません。関西電力においては、MOX燃料に異常が生じた事実はなく、当該MOX燃料に対して必要な検査を実施し安全上問題がないことを確認していることが公表されています。
7月11日	くにびきメッセ	2001年のフランスのダンピエール原発で、MOX燃料の装荷位置を間違えたため、結果、臨界状態に陥ったものであると聞いているが、どのような原因で起き、島根原発ではどのような対策をとっているのか。	当該事象は、仏国のダンピエール原子力発電所において、燃料交換作業中、原子炉建屋側と燃料建屋側の連絡不全により発生した事象であり、各々の建屋での作業ステップにずれが生じた結果、燃料装荷順序がずれて炉心配置に計画との不整合が生じたものです。なお、本事象では、炉心は未臨界に維持されており、人的ミスおよび燃料取扱手順・確認プロセスの不備などが主因とされています。 島根原子力発電所のようなBWRでは、燃料プールからの燃料の取り出しと炉心への装荷は、同じ建物内（原子炉建物）で同じ機器（燃料取替機）を用いた一連の作業として実施するため、ダンピエール原子力発電所で発生した事象のような、炉心配置の取り違えは発生するような状況ではありません。これは、MOX燃料導入後においても同様です。 当社では、燃料装荷作業は、社内マニュアルに基づき作成した移動手順（チェックシート）に従い、燃料取替機の操作者と確認者によるダブルチェックにより、燃料プール内の指定された位置の燃料を、炉内の指定された位置に装荷するという手順を繰り返すことにより実施します。また、燃料装荷後、定期事業者検査により、炉内の燃料配置が、計画した配置と相違がないことを水中カメラにより確認します。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月11日	くにびきメッセ	フランスのダンピエール原子力発電所で2001年に発生した燃料装荷ミスについて、島根でも、先日の燃料棒の転倒や、模擬部品をあやまって装荷していた事件など、人為的ミスがありうると指摘したい。	仏国のダンピエール原子力発電所で発生した炉心配置に係る不整合事象に関して、当社では、燃料装荷作業は、社内マニュアルに基づき作成した移動手順（チェックシート）に従い、燃料取替機の操作者と確認者によるダブルチェックにより、燃料プール内の指定された位置の燃料を、炉内の指定された位置に装荷するという手順を繰り返すことにより実施します。また、燃料装荷後、定期事業者検査により、炉内の燃料配置が、計画した配置と相違がないことを水中カメラにより確認します。当社としては、これまで島根において発生した事象一つひとつと真摯に向き合い、再発防止策を確実に実施し、発電所の安全管理に万全を期してまいります。
7月11日	くにびきメッセ	ウラン燃料とMOX燃料とどっちも使うのは、「混ぜるな危険」ではないのか。	ウラン燃料とMOX燃料を装荷する炉心は、MOX燃料の特性を踏まえて、安全性の基準を十分に満足するよう、燃料の配置や組合せを決定することとしており、ウラン燃料のみを使用する場合と安全性に差はありません。なお、国内外においてウラン燃料とMOX燃料を装荷した炉心での運転実績は十分にあり、合わせて使用することによって危険となるものではありません。
7月11日	くにびきメッセ	MOX燃料は燃えやすいプルトニウムが燃料棒中に偏在するため、温度にムラがあり、コントロールが効きにくいこと、固体にバラつきがあるため理論、シミュレーション通りには運用できないこと、中性子を吸収しやすいため制御棒が効きにくいことといった技術的な課題がある。更に、福島第1原発3号機でメルトダウンしたのはMOX燃料であり、原子力災害が発生した場合には、その被害は従来の千倍になるという計算結果もある。この問題点を解消する確かなエビデンスはあるのか。	MOX燃料の燃料棒に封入する燃料ペレットは、現在では二酸化プルトニウム粉末と二酸化ウラン粉末を粉碎・すりつぶしながら混合する加工法で製造していること、また、プルトニウムの粒径が安全上問題ない基準値以下であることを検査で確認していることから、燃えやすいプルトニウムの偏在（プルトニウム・スポット）は十分に小さくなり、温度のムラや固体のバラつきに関する技術的な課題はないものと考えています。また、MOX燃料はウラン燃料と比較して中性子を吸収しやすい性質がありますが、その影響を適切に設計・評価等に反映することで、ウラン燃料と同様に十分な安全性を確保することができ、これに関する技術的な課題もないものと考えています。加えて、島根2号機の新規制基準適合性審査においては、MOX燃料が装荷された状態で重大事故が発生したことを想定して評価を実施し、基準を満足することを原子力規制委員会に確認いただいています。当社としては、「事故は起こりうるもの」という前提のもと、新たな規制基準に的確に対応することはもとより、新たな知見も踏まえながら、さらなる安全性の向上を不断に追及し、島根原子力発電所の安全確保に万全を期していく考えです。
7月11日	くにびきメッセ	MOX燃料には、豊富な使用実績がある、受入れ実績があるとのことだが、注意書きの島根2号機で使用予定は福島第1の3号機だけで、柏崎刈羽3号機、浜岡4号機は、燃料プール貯蔵中で未使用ではないか。注意書きで、「実証実験を行い、試験後も燃料が健全であったことを確認」とあるが、1986年、87年段階（新規制基準前）ですよね。もっと実証試験を行い、その結果を公開し、市民に意見を求めるべきではないか。	BWRとPWRとでは、燃料集合体の形状等は異なりますが、MOXペレットを被覆管の中に挿入し、密封する等、燃料棒での基本設計の考え方は同等であり、燃料の融点や熱伝導度、照射特性、核反応の制御特性等、MOX燃料の採用に伴い変化する特性は、BWRもPWRも同様であり、新規制基準施行以降においても、国内のPWRの玄海3号機、伊方3号機、高浜3号機および高浜4号機でMOX燃料は安全に使用されています。加えて、海外では、ドイツのBWRのグンドレミンゲンB号機、C号機において多くの使用実績があります。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月11日	くにびきメッセ	ウラン燃料とMOX燃料は大差ないとしているが、使用期間を3/4としている。ここまで短くするのは、発熱の多さや放射能濃度の強さに対応するための特別な対応であり、大差がないわけではなく印象操作だと思うがいかがか。	ウラン燃料とMOX燃料の使用期間の差は、MOX燃料における燃焼に寄与する核分裂性物質の量が、現在使用しているウラン燃料と比較して少ない設計となっているためです。 MOX燃料は、ウラン燃料と比べ、性質にわずかな違いはありますが、適切に設計・評価に反映することで、ウラン燃料と同様に十分な安全性を確保できます。また、プルサーマル発電を行うことによる運転の違いはなく、安全上問題となることはありません。
7月11日	くにびきメッセ	プルサーマル発電についての説明を聞いていると、とにかくこれまでの発電と大差なく、安全だと繰り返されている。福島事故前に「原発は安全です」と繰り返されていた状況と同じ。推進する側が推進しようとして安全を繰り返すうちに、原発は本来危険であり、細心の注意、最大の安全対策が必要であることを忘れ、安全神話の自己催眠にかかってしまった。これが繰り返されようとしている。極めて危惧される状況であると思うがいかがか。	MOX燃料は、ウラン燃料と比べ、性質にわずかな違いはありますが、適切に設計・評価等に反映することで、ウラン燃料と同様に十分な安全性を確保できます。 当社としては、「事故は起こりうるもの」という前提のもと、新たな規制基準に的確に対応することはもとより、新たな知見も踏まえながら、さらなる安全性の向上を不断に追及し、島根原子力発電所の安全確保に万全を期してまいります。
7月11日	くにびきメッセ	プルサーマルを実施するにあたって、設備等をそのまま使用するが、今まで事故が無かったから安全だというのは無責任な対応だ。何故、地域に対して説明会を実施するのか、危険性についての説明がないのは何故か。説明会自体の信頼がなくなる。	MOX燃料は、ウラン燃料と比べ、性質にわずかな違いはありますが、適切に設計・評価等に反映することで、ウラン燃料と同様に十分な安全性を確保できます。 島根2号機におけるプルサーマル発電に係る取り組みを進めるにあたっては、周辺自治体を含む関係自治体および地域の皆さまのご理解が何より重要と考えており、広く地域の皆さまにご説明するとともにご意見を頂くため、地域の皆さまへの説明会を開催させていただくこととしたものです。 引き続き、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組んでまいります。
7月11日	くにびきメッセ	低減や減容という言葉が多く聞かれたが、減るだけでは十分ではないと思う。可能性が低いではリスクがゼロではないですね。限りなくゼロに近くてもリスクがあるのであれば、稼働しないでほしい。	MOX燃料は、ウラン燃料と比べ、性質にわずかな違いはありますが、適切に設計・評価に反映することで、ウラン燃料と同様に十分な安全性を確保できます。島根2号機の新規制基準適合性審査（原子炉設置変更許可の審査）においても、MOX燃料が装荷された状態で重大事故が発生したことを想定して評価を実施し、基準を満足することを国（原子力規制委員会）に確認いただき許可を得ています。 当社としては、「事故は起こりうるもの」という前提のもと、新たな規制基準に的確に対応することはもとより、新たな知見も踏まえながら、さらなる安全性の向上を不断に追及し、島根原子力発電所の安全確保に万全を期してまいります。
7月11日	くにびきメッセ	2号機はMOX燃料を想定して設計されているのか。	島根2号機は、MOX燃料の使用を想定して設計・評価を行い、その安全性を確認しており、2008年10月にMOX燃料の装荷に係る原子炉設置変更許可を取得するとともに、2021年9月にはMOX燃料の使用を前提とした新規制基準適合性に係る原子炉設置変更許可を取得しています。
7月11日	くにびきメッセ	不正のあったところの燃料を使って問題ないのか。	このたび調達するMOX燃料は、中部電力の調達管理のもとで製造されたものですが、MOX燃料は、燃料加工メーカー（GNF-J、オラノ）の品質保証体制のもとで、厳格な品質管理のうえ製造されたものです。 当社としては、燃料加工メーカーから提出されたMOX燃料の製造記録等について、当社が要求する品質保証のもとで技術基準に適合していることを、使用前事業者検査を通じて確認します。また、燃料加工メーカーへの監査により、品質保証活動等が適切に行われているか確認します。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月11日	くにびきメッセ	どれだけ危険があるからこうするという事になると思うが、その危険の見積もりが明らかにされないまま、対策が完了した審査に合格したという言い方では騙されている気分です。	MOX燃料は、ウラン燃料と比べ、性質にわずかな違いはありますが、適切に設計・評価に反映することで、ウラン燃料と同様に十分な安全性を確保でき、MOX燃料を使用することが危険だということはありません。 島根2号機の新規制基準適合性審査（原子炉設置変更許可の審査）においても、MOX燃料が装荷された状態で重大事故が発生したことを想定して評価を実施し、基準を満足することを国（原子力規制委員会）に確認いただき許可を得ています。 当社としては、「事故は起こりうるもの」という前提のもと、新たな規制基準に的確に対応することはもとより、新たな知見も踏まえながら、さらなる安全性の向上を不断に追及し、島根原子力発電所の安全確保に万全を期してまいります。
7月11日	くにびきメッセ	従来燃料で稼働している2号機をそのまま使用することだが、燃料の危険性が上がったにも係わらず、炉がそのままではリスクマネジメントが不十分ではないか。	MOX燃料は、ウラン燃料と比べ、性質にわずかな違いはありますが、適切に設計・評価等に反映することで、ウラン燃料と同様に十分な安全性を確保できます。
7月11日	くにびきメッセ	MOX燃料の冷却特性は、従来燃料と比較してどうなっているのか。同等以上か。	MOX燃料の基本構造は、ウラン燃料（島根2号機で実績のある高燃焼度8×8燃料）と同一であるため、冷却特性も同等です。
7月11日	くにびきメッセ	原発の被害は目に見えないところの不安が大きい。	原子力発電所では、放射能レベルの低い放射性物質を含んだ気体、液体、固体の廃棄物が発生するが、国の指針である線量目標値（気体・液体あわせて年間0.05mSv）に基づいた放出管理目標を定め、この値を超えないように努めています。 実績は、目標値を大きく下回って（年間0.001mSv以下）おり、国や立地自治体である島根県にも定期的に報告しているところです。 島根原子力周辺放射線量については、モニタリングポスト等を設置して、24時間大気測定を実施しています。海水・土壌・農産物および魚介類等も採取して測定し、周辺の環境に影響がないかを確認しています。 当社としては、島根原子力発電所において、何よりも事故を起こさないこと、万一事故が起きた際には周辺地域への影響を最小限にとどめることが重要だと考えています。福島第一原子力発電所のような事故を二度と起こさないという強い決意をもって、島根原子力発電所の安全性向上に努めてまいります。
7月11日	くにびきメッセ	これだけ、自然災害が頻発している中で地質的な変化の予測は可能でしょうか。	島根2号機の新規制基準適合性審査（原子炉設置変更許可の審査）においても、MOX燃料が装荷された状態で重大事故が発生したことを想定して評価を実施し、基準を満足することを国（原子力規制委員会）に確認いただき許可を得ています。 当社としては、「事故は起こりうるもの」という前提のもと、新たな規制基準に的確に対応することはもとより、新たな知見も踏まえながら、さらなる安全性の向上を不断に追及し、島根原子力発電所の安全確保に万全を期してまいります。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月11日	くにびきメッセ	ウラン資源節約効果1～2割と書いてあるが、具体的にいくらなのかが書かれていない。費用対効果がある政策なのか検討できない。	MOX燃料の調達等に係るコストについては、個別の契約に関する事項であり、回答は差し控えます。 なお、原子力発電は、発電コストに占める燃料費の割合が小さいことから、MOX燃料の調達に伴う発電コストへの影響は小さいと考えています。
7月11日	くにびきメッセ	MOX燃料の単価いくらか。（ウラン燃料と比べて10倍との指摘もあるが）	
7月11日	くにびきメッセ	経済の面で、商業上等の契約などから示せないと言われた。電気代として、住民から経費は徴収しているのに、その経緯、コストが明らかにできないのは意味がわからない。国が主導しているのなら、なおさらである。必ずトータルで（原料仕入れ、建設費、人件費等々）経費を明らかにしていただきたい。	
7月11日	くにびきメッセ	MOX燃料の利用により発電電力料金はどうなる（いくらアップになる）	
7月11日	くにびきメッセ	今回の説明会の中で特に知りたいと思ったのは、経済的なところをはっきりさせていただきたいということです。2026/03/16の第1回松江市原子力発電所環境安全対策協議会の事前質問の時に、「価格、契約に関わる事項であり、回答は差し控えさせていただく」とあり、今回もはっきりした経費は提示いただけませんでした。私たち市民も命をかけてのことなので、安全保障、経費、建築等々すべてのことを明らかにして私たちに示していただきたい。必ず、皆の質問にデータとともにお答えください。	
7月11日	くにびきメッセ	2号機でプルサーマルを実施することにより、中国電力のプルトニウムバランスの見直しはどうなるのか。発生と消費の数値見直しを明らかにしてほしい。	当社が保有するプルトニウム（約1.4トンPut）および、今後島根2号機と3号機で発生する使用済燃料の再処理により、六ヶ所再処理工場で回収されるプルトニウム（当社割当見込量：約0.4トンPut/年程度）は、島根2号機で十分に消費可能です（年間利用目安量：約0.4トンPut/年）。
7月11日	くにびきメッセ	プルサーマルをやっている発電所の例として外国の数字を挙げられていたけど、地震国である日本との比較にはならないと悪意を感じた。国内のプルサーマルは全て加圧式である。島根を実験台にしたいのか。	BWRとPWRとでは、燃料集合体の形状等は異なりますが、MOXペレットを被覆管の中に挿入し、密封する等、燃料棒での基本設計の考え方は同等であり、燃料の融点や熱伝導度、照射特性、核反応の制御特性等、MOX燃料の採用に伴い変化する特性は、BWRもPWRも同様です。 また、PWR、BWRのいずれも、MOX燃料集合体の炉心装荷率が1/3程度であれば、ウラン燃料炉心と同等の特性を有する炉心設計は可能※とされており、その範囲内で国の原子炉設置変更許可を取得していることから、BWRでのプルサーマル発電について、PWRと比べて、制御上の難しい点や特有のリスクはありません。 ※発電用軽水型原子炉施設に用いられる混合酸化燃料について（平成7年6月19日原子力安全委員会了承）
7月11日	くにびきメッセ	プルトニウムを減らしたいなら、再処理しなければいいのでは	プルサーマル計画の推進は、「エネルギー資源の有効利用」「利用目的のない余剰プルトニウムを持たないという国際公約の履行」「高レベル放射性廃棄物の減容化・有害度の低減」などの観点から極めて重要なものと考えています。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月11日	くにびきメッセ	安全対策のための費用とか全く触れていないのが疑問です。風力や太陽光等の自然エネルギーによる電力確保が充分になってきている中で、送電線をきちんと整備すれば、安定的に電力を得られると思うのですが、送電線の費用がかかってできないと言われますが、原発を作るよりも費用がかかるのですか。	島根原子力発電所（１～３号機）全体の安全対策費用は、総額で9,500億円程度と見込んでいます。 再エネは、重要な脱炭素の国産エネルギー源であり、当社としても導入拡大に向けて積極的に貢献していきたいと考えていますが、再エネ発電の「主力電源化」にあたっては、安定供給を維持する観点において、調整力・慣性力・同期化力の確保等、種々の課題を克服しながら進めていく必要があると認識しています。 今後の電源構成の計画について、現時点で具体的にお示しすることはできませんが、エネルギーの安定供給、経済性等を勘案しつつ、再エネの導入量を最大限拡大するとともに、安全確保を大前提とした原子力の早期稼働、カーボンニュートラルな火力の活用等により、脱炭素化を目指してまいります。
7月11日	くにびきメッセ	現在のウラン燃料でも危険であるが、MOX燃料利用により危険度は確実に増す。また、単価も10倍となるなどコスト面でもメリットはないが、住民にとってプルサーマルを進めるメリットは何か。	MOX燃料は、ウラン燃料と比べ、性質にわずかな違いはありますが、適切に設計・評価に反映することで、ウラン燃料と同様に十分な安全性を確保できます。 MOX燃料の調達等に係るコストについては、個別の契約に関する事項であり、回答は差し控えます。 なお、原子力発電は、発電コストに占める燃料費の割合が小さいことから、MOX燃料の調達に伴う発電コストへの影響は小さいと考えています。 プルサーマル計画の推進は、「エネルギー資源の有効利用」「利用目的のない余剰プルトニウムを持たないという国際公約の履行」「高レベル放射性廃棄物の減容化・有害度の低減」などの観点から極めて重要なものと考えています。 資源に乏しい日本は、そのほとんどを海外からの輸入に頼り、自給率はわずか16.3%（2024年度実績：経済産業省）です。日本にとってプルサーマルは、長期的なエネルギー資源の確保、すなわち、皆さまに安定して電気をお届けするためにも、必要な取り組みの一つであると考えています。
7月11日	くにびきメッセ	国策によってプルトニウムを減らすことは、イギリスのように核燃料サイクルを放棄し、「ワンスルー方式」をとればよい。	エネルギー基本計画では、使用済燃料を再処理し、回収されるプルトニウムなどを有効利用する原子燃料サイクルの推進が基本方針とされています。 プルサーマル計画の推進は、「エネルギー資源の有効利用」「利用目的のない余剰プルトニウムを持たないという国際公約の履行」「高レベル放射性廃棄物の減容化・有害度の低減」などの観点から極めて重要なものと考えています。
7月11日	くにびきメッセ	最終処分場も決まらないまま、核燃料サイクルが確立できていないまま進めてよいのか。	高レベル放射性廃棄物の最終処分については、北海道寿都町および神恵内村、佐賀県玄海町、東京都小笠原村で文献調査が進められているところです。当社としては、高レベル放射性廃棄物の発生者として、国やNUMOとも連携しつつ、地域の皆さまとの対話活動等を通じて、できるだけ多くの皆さまのご関心やご理解が深まるよう取り組んでまいります。 原子燃料サイクルは、ウラン資源の有効活用、廃棄物の減容の観点から極めて重要であり、長期的な視点に立ち、一貫性をもって進めることが肝要と考えています。
7月11日	くにびきメッセ	日本は資源に乏しく世界的にみても化石燃料を巡る争いは絶えず、いつまでも頼るわけにはいけないので、使えるものは無駄なく使い続けていけることはすばらしいことだと思う。日本にはそれだけの技術と知識があると信じている。	プルサーマル計画の推進は、エネルギー資源の有効利用、利用目的のない余剰プルトニウムを持たないという国際公約履行の観点等から極めて重要なものと考えています。 当社としては、プルサーマル計画について、地域の皆さまのご理解を賜りながら進めていけるよう最大限努力してまいります。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月11日	くにびきメッセ	使用済MOX燃料の再処理技術が確立するのは、何年後を予定しているのか。エネ庁は2040年度までに…といているようだが、再処理技術が確立してから、実施を検討すべきではないか。	使用済MOX燃料についても、使用済ウラン燃料と同様に、再処理工場において再処理することとしており、再処理工場に搬出するまでの間、島根2号機の燃料プールにて保管管理します。 第7次エネルギー基本計画（2025年2月18日閣議決定）において、使用済MOX燃料の再処理については、国際連携による実証研究を含め、2030年代後半を目途に技術を確認すべく研究開発を進めるとともに、その成果を六ヶ所再処理工場に適用する場合を想定し、許認可の取得や実運用の検討に必要なデータの充実化を進めることとされています。
7月11日	くにびきメッセ	高速増殖炉も使わないウラン燃料核サイクルの不合理についての説明がないのは何故か。	プルサーマル計画の推進は、エネルギー資源の有効利用、利用目的のない余剰プルトニウムを持たないという国際公約履行の観点等から極めて重要なものと考えています。 高速炉については、原子力関係閣僚会議の「戦略ロードマップ（令和4年12月23日）」により、世界最高レベルの技術基盤の維持・発展を図りつつ、高い安全性と経済性を同時に達成する高速炉を開発すること等が目標とされています。
7月11日	くにびきメッセ	六ヶ所工場は27回目の延期、ガラス固化装置の設計（日本製）ミスにより、800トン／年は今後も見込めないのではないか。早期に方針転換すべき。再処理サイクルから転換し、プルトニウムを取り出すことは止めるべき。英国はプルトニウムを廃棄処分している。	六ヶ所再処理工場で2006年から行われたアクティブ試験では、ガラス固化体の製造工程でトラブルがありました。日本原燃は対策を講じた上で、2013年までに、六ヶ所再処理工場で実際の廃液を用いた試験を行い、ガラス固化体の製造が適切に行われることを確認しています。これにより、再処理に関する技術的課題は解決されたと認識しています。 プルサーマル計画の推進は、「エネルギー資源の有効利用」「利用目的のない余剰プルトニウムを持たないという国際公約の履行」「高レベル放射性廃棄物の減容化・有害度の低減」などの観点から極めて重要なものと考えています。
7月11日	くにびきメッセ	浜岡原発は今凍結している。そこから原料をもらうということだが、何故、浜岡が凍結していても、松江は推進しようと思われるのか。住民より国の命令が上か。	エネルギー基本計画では、使用済燃料を再処理し、回収されるプルトニウムなどを有効利用する原子燃料サイクルの推進が基本方針とされています。 プルサーマル計画の推進は、「エネルギー資源の有効利用」「利用目的のない余剰プルトニウムを持たないという国際公約の履行」「高レベル放射性廃棄物の減容化・有害度の低減」などの観点から極めて重要なものと考えています。
7月11日	くにびきメッセ	エネルギー資源の乏しい我が国において、原発は本当に有効なのか。トータルコスト（輸送、リサイクル、何百年もの間冷却）を考えると、何をもって有効なのか。日本では採れないウラン、すべて輸入に頼っているものにこれからも頼るのか。数百年後、数千年後の安全をどう担保するのか。	資源の少ない我が国（エネルギー自給率：16.3%、2024年度実績、経済産業省）においては、S+3E（安全性、安定供給、経済効率性、環境適合）を大前提に、個々の電源種（再エネ、原子力、火力等）の特徴を活かしながら、バランスの取れた電源構成としていく必要があると考えています。原子力は、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、実用段階にある脱炭素化の選択肢として、再生可能エネルギーの拡大とともに持続的に活用していく必要があると考えています。 再処理により使い終わったウラン燃料をリサイクルするプルサーマルを実施することで、1～2割のウラン資源節約効果が得られることから、日本にとってプルサーマルは、長期的なエネルギー資源の確保のために取り組む必要があるものと考えています。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月11日	くにびきメッセ	リサイクルを強調されているが、「リサイクル」は再生するもの。しかし、MOX燃料が循環するサイクルは今のところなくゴミになるので誤解を招く表現ではないか。	プルサーマルは、直接処分と異なり、使用済燃料からウラン、プルトニウムを取り出したMOX燃料を作製することから、リサイクルにあたるものと考えています。使用済MOX燃料の再処理に関しては、2030年代後半を目途に技術を確認すべく研究開発を進めるとともに、許認可の取得や実運用の検討に必要なデータの充実化を進めることとされています。
7月11日	くにびきメッセ	核廃棄物の処理期間が短くなるとの説明だが、300年という年数は、現在の電気使用者ではなく、子孫が負担しなければならないとの考慮がない。	エネルギー基本計画では、使用済燃料を再処理し、回収されるプルトニウムなどを有効利用する原子燃料サイクルの推進が基本方針とされています。国においても、原子力発電を利用してきた現世代が放射性廃棄物の処分の道筋をつけ、将来世代の負担をできるだけ小さくすることが、世代責任の観点からも適当との考えが示されています。
7月11日	くにびきメッセ	六ヶ所村再処理工場の問題、使用済MOX燃料の処理問題など、核燃料サイクルは未確立、商業原発が始まって60年経ってもこの状況。「いつかできる」で原発を動かしたり、プルサーマルを実施するのはやめるべき。せめて、きちんと確立してからスタートすべき。	使用済MOX燃料についても、使用済ウラン燃料と同様に、再処理工場で再処理することとしています。使用済MOX燃料は、使用済ウラン燃料と同様に、再処理工場に搬出するまでの間、島根2号機燃料プールにて安全に保管管理します。使用済MOX燃料を安全かつ確実に処理・処分していくことは極めて重要な課題であると認識しており、当社を含む原子力事業者は、使用済MOX燃料の再処理技術の早期確立を目指し、使用済MOX燃料に関する再処理実証研究の実施に向けた取り組みを進めることとしています。なお、使用済MOX燃料は、これまでに仏国で約70トン、日本で約30トンを試験的に再処理した実績があり、使用済MOX燃料の再処理は技術的に可能であると考えています。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月11日	くにびきメッセ	国が進める核燃料サイクルについて、国内だけでなく核に詳しい、アメリカやフランスと共同で進めつつ、完全な物とするようお願いします。	2026年4月1日に、核燃料サイクルに関する協力強化等について、日本・フランス間の原子力エネルギー協力に関する共同声明が発表されています。この共同声明は、日本とフランスが原子力エネルギーの平和的利用に関する協力を着実に進展させてきたことを踏まえ、さらに協力関係を強化するものであり、既設炉の最大限の活用や原子燃料サイクルといった共通する課題について、日仏で連携して取り組んでいくものになります。 また、当社を含む原子力事業者（電力9社（除く沖縄電力）と日本原子力発電、電源開発の電力11社）は、2023年5月19日、使用済MOX燃料の再処理技術の早期確立を目指し、仏国にて、使用済MOX燃料に関する再処理実証研究の実施に向けた取り組みを進めることとしています。使用済MOX燃料の再処理実証研究は、使用済MOX燃料を商業用プラントで再処理した実績を有する仏国オラノ社に国内で発生した使用済MOX燃料を輸送し、使用済MOX燃料の性状や再処理設備への影響等、使用済MOX燃料の再処理の実用化に向けて必要な技術的知見を得るとともに、国内の原子力発電所で使用しているMOX燃料が商業用プラントで再処理可能であることを実証するものです。
7月11日	くにびきメッセ	核燃料サイクルのメリットについて、 ①減容化・・・1/4になる低レベルの廃棄物は増える。 ②有害度低減・・・燃料として使用するプルトニウムなどの低減化は考えないのか（半減期2400年である） ③資源の有効利用・・・Puとウランは利用実績があるのか。	①減容化 再処理により、高レベル放射性廃棄物の発生量を低減できますが、高レベル放射性廃棄物の量を体積比で約40%に減らすことができると試算されています。また、再処理を行った場合には、ウランとプルトニウムが回収されるため、放射能の強さは直接処分の場合に比べて減少し、環境負荷の低減も図れます。一方、再処理に伴い低レベル放射性廃棄物（TRU廃棄物）も発生することとなりますが、低レベル放射性廃棄物（TRU廃棄物）については、原子力委員会において、廃棄物の放射能濃度や性状に応じて区分し、それぞれの区分に応じた方策を講じることで、安全な処分が可能との基本的考え方が示されています。なお、島根2号機において、プルサーマルを実施した場合でも、島根原子力発電所の運転に伴って発生する低レベル放射性廃棄物（発電所廃棄物）の発生量が増加することはありません。 ②有害度低減 プルサーマルでプルトニウムを消費することにより、プルトニウムは減少します。 ③資源の有効利用 再処理によって得られる回収ウランは、島根2号機でも利用実績があります。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月11日	くにびきメッセ	鳥取県側も2回住民説明会を開催される予定だが、ここで反対意見が多ければどうするのか。2度の説明会で住民の理解ができるとは思えない。福島事故前に松江市での説明会は何回持たれるのか。同じ回数の説明を求める。	当社は、プルサーマルについて多くの皆さまに理解を深めていただくため、地域の皆さまへの説明会の開催のほか、発電所見学会の機会を捉えた説明、広報紙の6市（松江市、安来市、出雲市、雲南市、米子市、境港市）全域への新聞折込（約19万部）および公民館等への配布・説明、ホームページでの情報提供、報道発表等を通じた広報・対話活動を実施しています。 また、日々の公民館訪問やエネルギー勉強会などの出前講座などにおいても地域の皆様と対話を重ねているところであり、こうした機会に寄せられるご意見やご質問についても丁寧に回答するなど、地域の皆さまの理解が一層深まるよう取り組んでいます。 現時点で、当社主催のプルサーマルに係る説明会の追加開催の予定はありませんが、説明会という場に限らず、こうしたさまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう、引き続き、丁寧な説明・対話に取り組んでまいります。なお、説明会当日、会場にお越しいただけなかった方にもご覧いただけるよう、ホームページ上で、資源エネルギー庁および当社の説明箇所の動画、質疑の議事録を公開しています。
7月11日	くにびきメッセ	十分な回答がなかった質疑もあった。時間切れのため再度開催を求める。	
7月11日	くにびきメッセ	説明会は今回だけでなく、1カ月に1回ぐらいの頻度で行っていただきたい。	
7月11日	くにびきメッセ	忙しい方に向けて、動画や開催場所も検討してほしい。	
7月11日	くにびきメッセ	メリットだけでなく、デメリット・懸念点を一緒に教えてほしい	プルサーマルはエネルギー資源の有効利用により安定供給に寄与する一方で、使用済燃料のリサイクルを行うための再処理施設などが必要となることから、MOX燃料はウラン燃料と比較して費用は高くなります。しかしながら、原子力発電では、発電費に占める燃料費の割合が小さいため、MOX燃料の使用が原子力発電コストに与える影響は小さいものになります。 2024年度のコスト検証（総合エネルギー調査会）では、核燃料サイクル関連の費用は1.9円/kWhと試算されており、その内、MOX燃料の製造費用は0.1円/kWhと試算されており、原子力発電全体の発電コストに占めるMOX燃料製造費用の割合は約1%未満と試算されています。
7月11日	くにびきメッセ	平井知事は、6月24日のPT会議で中電からの申入れを受け、「ゼロからのスタート」と発言された。島根県と同等の安全協定を結んでいるのであれば、当然「事前了解」が必要と考えてよいのか。	プルサーマル発電については重要な案件であることから、「島根原子力発電所に係る鳥取県民の安全確保等に関する協定」の趣旨に鑑み、鳥取県および米子・境港両市に対して丁寧に説明させていただきます。その際いただいたご意見に対して、同協定第21条に基づき、誠意をもって対応させていただきます。 なお、島根2号機でのプルサーマル発電の実施については、2008年10月に原子炉設置変更許可を受領し、2009年3月に当時の安全協定締結先である島根県および松江市から既に事前了解をいただいています。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月11日	くにびきメッセ	地元の同意は、原発の稼働による①エネルギーコストの低減、②電力の安定供給の実現のために、現実的に頼らざるを得ないとして消極的に容認をされました。それに関わらず、この2点について具体的な根拠が示されておりません。説明はチェリーピッキング（部分的な引用情報）のみであり、具体的な島根原発のコスト、原発を使用しない電源構成による電力需給の具体的なシミュレーションの提示を求めます。それがなされない限りは地元の容認は無効です。	発電コスト検証WGにおいて、原子力発電のコストは、廃炉費用、核燃料サイクル費用〔放射性廃棄物最終処分含む〕など将来発生するコスト、事故対応費用〔損害賠償、除染含む〕、電源立地交付金・もんじゅなどの研究開発等の政策経費といった社会的費用も含めても、他電源と遜色ない水準とされています。2025年度決算において、島根2号機の再稼働に伴い原料費（燃料費）が減少した一方で減価償却費等が増加した結果、260億円利益が増加しました。加えて、原子力は発電コストに占める燃料費（変動費）の割合が小さいことから、燃料価格の高騰による発電コストの大幅な上昇を避けることができるなど、価格安定面のメリットがあります。具体的な島根原子力発電所の発電コストについては、経営の根幹に関わる情報であり、競争上の観点から、回答を控えさせていただきます。
7月11日	くにびきメッセ	設工認はいつ申請されるのか。	現時点で具体的な申請時期をお示しできる状況にありませんが、当社としては、工程ありきではなく、引き続き、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組みながら、安全確保を最優先にプルサーマル発電の実施に向けた取り組みを進めてまいります。
7月11日	くにびきメッセ	自然エネルギーを使用した電力と発電所の電力とうまく使えるようなシステムが必要だと思うが、日本はそれができていないと聞いている。電力の民営化等が余計にできなくしているのではないかと思うが。国策等でシステムを構築すべきではないか。	電気のエネルギー源には、長所と短所があります。再エネは国産のエネルギーであり、発電時にCO2を出さない等の長所はありますが、一方で、季節・天候・時間帯によって発電量が変動するため、安定供給のためには火力発電などの出力調整が可能な電源や大規模な蓄電池との組み合わせが必要であることなどの課題（短所）を克服していく必要があります。当社としても、再エネの導入を最大限拡大していく考えですが、現時点では、克服していかなければならない種々の課題が残されており、再エネのみで電気をまかなうことは困難です。お客さまに電気を安定的かつ安価にお届けするとともに、地球温暖化対策にも貢献していくためには、再生可能エネルギー・火力・原子力をバランスよく組み合わせること、それぞれの短所を補い合うことが必要だと考えています。
7月11日	くにびきメッセ	質疑を聞いてますます不安になった。自然再生エネへの転換を進めてほしい。（原発稼働はやめてほしい）	
7月11日	くにびきメッセ	太陽光発電他など、政府は力を入れるべきでは。	第7次エネルギー基本計画（2025年2月閣議決定）において、国はエネルギー安定供給と脱炭素を両立する観点から、再生可能エネルギーを主力電源として最大限導入することとしています。再エネは、重要な脱炭素の国産エネルギー源であり、当社としても導入拡大に向けて積極的に貢献していきたいと考えています。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月11日	くにびきメッセ	国に翻弄されるのではなく、できないものはできないと言える勇気を持ってほしい。貴社はCMでは、風力、太陽光の再エネにも力を入れていると言われている。いち早く再エネにシフトしてほしい。	プルサーマル計画の推進は、「エネルギー資源の有効利用」「利用目的のない余剰プルトニウムを持たないという国際公約の履行」「高レベル放射性廃棄物の減容化・有害度の低減」などの観点から極めて重要なものと考えています。資源に乏しい日本は、そのほとんどを海外からの輸入に頼り、自給率はわずか16.3%（2024年度実績：経済産業省）です。日本にとってプルサーマルは、長期的なエネルギー資源の確保、すなわち、皆さまに安定して電気をお届けするためにも、必要な取り組みの一つであると考えています。今後の電源構成の計画について、現時点で具体的にお示しすることはできませんが、エネルギーの安定供給、経済性等を勘案しつつ、再エネの導入量を最大限拡大するとともに、安全確保を大前提とした原子力の早期稼働、カーボンニュートラルな火力の活用等により、脱炭素化を目指してまいります。
7月11日	くにびきメッセ	100%安全と保障しきれない中で、事故が起きれば計り知れない放射能被害が予想される危険なプルサーマル、労働者の皆さんにとっても重大です。原発、プルサーマル発電ではなく、再生可能自然エネルギーの開発に切り替える努力を本格的に進めてもらい、人間を含め自然界の安全を守ることが次世代への責任ではないだろうか。	MOX燃料は、プルトニウムの影響により、ウラン燃料と比べ、性質にわずかな違いはありますが、MOX燃料を装荷した場合とウラン燃料のみを装荷した場合を比べた場合、原子炉の特性は同等であり、MOX燃料が事故の進展に影響を与えることはありませんが、未使用の状態においては、ウラン燃料と比較して放射線量が高くなるため、作業員の被ばく低減を確実に実施してまいります。当社としても、再生可能エネルギーの最大限の導入および活用の拡大を進めてまいります。
7月11日	くにびきメッセ	中国電力は再生可能エネルギーにも力を入れて下さっているの、その姿勢は気候変動対策にもなっており、大変尊敬する。	再生可能エネルギーの最大限の導入および活用の拡大を進めるとともに、電力の安定供給の観点からは揚水発電や系統用蓄電池、火力発電等を活用した調整力の確保が課題の一つと認識しており、「再エネ導入拡大」と「調整力確保」を両輪で進めているところです。至近では下松発電所跡地において、系統用蓄電システム導入の諸準備を実施しています。
7月11日	くにびきメッセ	2029年に40年超えの「老朽原発」に入る。そのための特別点検に入り、その後、申請するか決めるとのことだが、常識的に考えて順番が逆。規制委に申請して認可され、それからプルサーマル計画だろう。もし、認可がされなかった場合、MOX燃料はどうされるのか。どのような契約となっているのか。	島根2号機については、最大限活用していきたいと考えていますが、40年超運転については、特別点検を実施し、安全性を確認したうえで、供給面、経済面、環境面等を総合的に勘案して判断することとしており、現時点で決まったものではありません。40年超運転についても、プルサーマル発電の実施と同じく、地域の皆さまからのご理解が非常に重要であると考えており、適切な情報公開やご説明を実施してまいります。なお、MOX燃料の調達等については、個別の契約に関する事項であり、回答は差し控えます。
7月11日	くにびきメッセ	MOX燃料の使用については、もっとよく理解できるように説明してほしい。一方的ではなく、住民の不安を取り除いてから実施をしてほしい。今現在は全く理解されていないと思われる。	当社としては、いただいたご意見も踏まえ、引き続き、発電所見学会や広報誌、ホームページ等も含め、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組んでまいります。
7月11日	くにびきメッセ	島根原発2号機は、冷却能力不足、火災といった安全に対するインシデントが今年だけで計3件発生している。特に冷却能力不足は、冷却能力が貴社基準を3374日あったとのことで、安全基準を無視して運転していると受け取った。そのような安全意識の低い運用体制では、地元住民の信頼性を著しく損なうと考えるが、組織の安全意識に対する改善措置はないのか。そして、なぜ基準を下回ったことを放置して運用を続けたのか。重大なコンプライアンス違反ではないのか。	地域の皆さまをはじめ、多くの関係者の皆さまにご心配をおかけしたことをお詫び申し上げます。本事案を認識して以降、調査を速やかに開始する等、適切に対応できたものと考えています。当社としては、協力会社とともに、このたび策定した再発防止策を確実に実施し、発電所の安全管理に万全を期してまいります。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月11日	くにびきメッセ	浜岡原発のデータ捏造問題は、決して他人事ではない。中国電力においても、海域活動断層の連動問題等、住民が納得するまで説明責任を果たしてほしい。	当社としては、同じ原子力を扱う事業者として、浜岡原子力発電所の事案を重く受け止めており、5月29日の審査会合において、これまで当社が規制委員会の審査ガイドや社内規定等に基づき適切な評価・取り組みを行ってきたことを説明しました。その後、6月18日に本社において原子力規制庁による現地確認が行われ、会合における当社説明の根拠となる資料等の現物をもとに説明しました。現地確認の結果、原子力規制庁からは『文書・記録類を確認し、不適切な点は認められなかった。』との評価を頂いています。 なお、央道断層と鳥取沖西部断層については、央道断層東端と鳥取県沖西部断層西端の端部の性状について断層活動性が低下していることや、央道断層で認められる重力異常が鳥取県沖西部断層に連続していないこと、また、複数の音源、測線による音波探査の結果、両断層間に後期更新世以降（約12～13万年前）の断層活動が認められないことなどから、両断層が連動することはないと評価しており、審査会合で妥当性が確認され設置変更許可を得ています。
7月11日	くにびきメッセ	今夏もエルニーニョ現象による猛暑が予測されています。近年は災害級の猛暑日が続くことで、産業用の電力も必要なが、命を守る電力として、これからも安全で安定した電力供給が必要だと思います。分かりやすい説明でした。	島根2号機は、電力の安定供給の維持や2050年カーボンニュートラルの実現に向けて重要な役割を担うものと考えています。引き続き、電力の安定供給に向け、安全確保を大前提とした島根2号機の安定運転の継続に努めてまいります。
7月11日	くにびきメッセ	島根原発2号機で作った電気はどこで使用されているのか。地産地消で全て地元の島根・鳥取で使用されているのか。	島根2号機の電力を含め、三隅火力・水力・山陽側の火力の発電した電気は、中国電力ネットワークの送変電設備を経て、各家庭まで電気が届けられており、中国エリア全体で電力が不足とならないよう安定供給に努めているところです。1日の電気の使われ方も時間帯により増減するため、需要に合わせ、各発電を組み合わせ調整されるものであり、島根2号機の電気が山陰両県のみで消費されるものではありません。
7月11日	くにびきメッセ	質疑応答にもあったが、たとえば世論調査等色々な聞き取りをしたとしてもたくさんの「反対」の声が出たときは、計画を断念する勇気をもっていただきたい。	現時点で、当社主催のブルサーマルに係る説明会の追加開催の予定はありませんが、説明会という場に限らず、こうしたさまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう、引き続き、丁寧な説明・対話に取り組んでまいります。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月11日	くにびきメッセ	燃料支持金具の取り換えについて、再発防止策で模擬品は正規品と同じ物を使えば一番の問題解決策になると思うがどうか。再発防止策が考え方的に「この程度」で良いのかと思った。もっと具体的に防止策を考えてほしい。	ご指摘のとおり、「模擬品を使用せず、正規品を動作確認用として使用すれば、模擬品と正規品の取り換えそのものが発生しないのではないか」という考え方もあると認識しています。 一方、本事案は1995年当時に発生したものであり、その後の品質保証活動の充実や作業管理の改善により、追加作業の手順反映、部品の仕様確認、品質確認などの仕組みは大きく改善されています。このため、現在の業務運用においては、当時と同様の事象は発生しないものと考えています。 そのうえで、今回の原因調査により、当時使用していた模擬品が正規品と明確に識別できる設計ではなかったことや、識別表示、保管管理などに改善の余地があることを確認したため、更なる再発防止対策として、 ・ 模擬品を形状や塗装色により正規品と明確に識別できる設計とすること ・ 正規品と模擬品の識別表示や仮置き場所の区分を明確化すること ・ 個体識別番号による確認を手順に明記すること ・ 作業員への教育を充実すること などを実施しています。 当社としては、現在の管理のもとでも同様の事象は防止できると考えておりますが、再発防止の確実性をさらに高める観点から、今回の調査結果を踏まえた追加対策を実施し、安全確保に万全を期してまいります。
7月11日	くにびきメッセ	避難経路も十分ではない。30キロ以内で助かるのはお山のサルだけと揶揄されているのをご存知か。安全であれば、広島に作って下さい。	島根地域の関係2県6市（島根県、松江市、出雲市、安来市、雲南市、鳥取県、米子市、境港市）には、避難計画を策定いただいており、それらの避難計画や関係機関の緊急時の対応を含む「島根地域の緊急時対応」が具体的かつ合理的であるとして国に了承（2021年9月）されています。 避難計画については、新たな知見や訓練等の検証を踏まえ、住民避難の実効性向上が図られていくものと認識しており、当社としても最大限対応してまいります。
7月11日	くにびきメッセ	クリーンエネルギーの研究に優れている人材が豊富なはずなのに、原子力発電を推進するのは何故ですか。CO2の議題が今回無かったのは何故か。温室効果ガスに関する検証は進んでいるのか。	当社グループは、「2050年カーボンニュートラル」の実現に向けて取り組みを具体化させるため、中国電力グループ全体のサプライチェーン排出量を2013年度比で、2030年度に50%、2035年度に60%削減する目標を設定しました。 重点施策として再エネ導入量の最大限拡大や、安全を大前提とした原子力発電の活用等の取り組みに加え、中国地域を基盤とする事業者として、ネットワーク設備の高度化に取り組むとともに、「お客さま・地域の脱炭素化」に資するサービスの開発と事業展開に取り組んでまいります。 なお、小売事業におけるCO2排出量削減効果については、島根2号機の発電量の全てを当社小売部門が調達すると仮定して算定して、過去（2024年度）の排出係数を用いて算定した場合、年間220万トン程度と見込んでいます。
7月11日	くにびきメッセ	電力が現代生活になくてはならない基盤だということは疑問の余地がありません。AIなどの発達、データセンターの乱立、気候変動などを考えるにつれ、私は以前の原発大反対の姿勢を変えることにしました。安全に気がばりしながら、当面は頼らざるを得ないと思っています。「トイレのない」と形容されるように出口に大きな問題を抱えているのは間違いないでしょう。世界のエネルギー状況も日々刻々と目まぐるしく変わっています。「絶対」という政策は多分ないのでしょうか。	ウクライナ問題の長期化や中東情勢などを受け、燃料の確保に係る不確実性が高まる中、お客さまへ低廉かつ安定的に電気をお届けするため、さらにはカーボンニュートラルの実現に向け、安全確保を大前提とした原子力発電の活用は不可欠だと考えています。 島根2号機については、安全確保を最優先に、引き続き安定稼働に取り組んでまいります。 高レベル放射性廃棄物の最終処分については、国やNUMOとも連携しつつ、地域の皆さまとの対話活動等を通じて、できるだけ多くのご関心やご理解が深まるよう取り組んでまいります。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月11日	くにびきメッセ	央道断層は、現在39kmにも及んでいるが、中電の当時の調査結果は8kmと言っていた。環境アセスメントが非常に低次元であり信ぴょう性が全くない。このような地震のリスクの高い場所にこのような設備を設置してはいけない。	基準地震動の策定にあたっては、その時点における耐震指針、最新の知見・技術動向およびそれらを踏まえた地質調査結果をもとに、審査会合での議論も踏まえた評価を行い、必要があれば見直していくことが事業者の努めであると考えています。
7月11日	くにびきメッセ	作業員を含め、被ばくの推移を公開してほしい。ウラン採取の際の労働者の被ばくについて公開してほしい。	島根原子力発電所の放射線業務従事者の線量管理状況については、半年ごとに安全協定先に連絡するとともに、年度ごとの推移をホームページにて公開しています(https://www.energia.co.jp/atom/atom11.html)。ウラン採取の際の労働者の被ばくについては、当社において被ばく管理を行っていないことからホームページ等によるデータ公開は行っていないのでご了承願います。
7月11日	くにびきメッセ	中部電力の不正を受けて、中国電力もデータ不正がないか、第三者機関に評価を受けてほしい。予定はあるのか。	5月29日の審査会合において、これまで当社が規制委員会の審査ガイドや社内規定等に基づき適切な評価・取り組みを行ってきたことを説明しました。その後、6月18日に本社において原子力規制庁による現地確認が行われ、会合における当社説明の根拠となる資料等の現物をもとに説明しました。現地確認の結果、原子力規制庁からは『文書・記録類を確認し、不適切な点は認められなかった。』との評価を頂いています。今後の審査に引き続き適切に対応してまいります。
7月11日	くにびきメッセ	インスタに今日の説明会なども載せてほしい	説明会当日、会場にお越しいただけなかった方にもご覧いただけるよう、ホームページ上で、資源エネルギー庁および当社の説明箇所の動画、質疑の議事録を公開しています。当社SNSを活用した説明会の掲載は現時点で予定していませんが、引き続き、発電所見学会や広報誌、ホームページ等も含め、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組んでまいります。
7月11日	くにびきメッセ	youtube配信などで情報提供をしてほしい。	
7月11日	くにびきメッセ	説明会に来れない人もいると思うので、ケーブルテレビなどで公開してはどうか。	
7月11日	くにびきメッセ	今回も開催の情報自体がなくラジオやマールの活用があればよいです。	説明会の案内については、案内チラシの新聞折込・公民館配布・掲示依頼のほか、ケーブル各局（島根県内）のインフォメーション放送を活用した周知を実施しました。
7月11日	くにびきメッセ	「100年先もずっと」のメッセージを発するのであれば、未来世代に責任のある政策が必要と考える。国の政策とは別に真に将来世代に禍根を残さないために、核のゴミの押し付けは許されません。今すぐに新たなゴミを出さないようにやめるべき。核のゴミをめぐっては、地域間の無駄な分裂を生んでおり、国民に無用な不安を与えています。地域ごとの再エネを確立し、地域経済の循環を生み出してほしいです。	高レベル放射性廃棄物の最終処分場については、高レベル放射性廃棄物の発生者として、国やNUMOとも連携しつつ、地域の皆さまとの対話活動等を通じて、できるだけ多くの皆さまのご関心やご理解が深まるよう取り組んでまいります。再エネの開発にあたっては、「安定供給への影響」「電力コスト」のほか、平地や遠浅の海が少ないなどの適地が限られていることや地元などのステークホルダーとの調整が難しいなどの「地理的・社会的な制約」が課題として挙げられます。こうした課題にも向き合いつつ、再生可能エネルギーの最大限の導入および活用の拡大に努めてまいります。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月11日	くにびきメッセ	事故が起きない前提？事故が起きたらどうなるの？福島事故を見て、車の交通事故とはわけがちがう、目に見えない地球レベルの被害、影響が起こる。数年で解決できるものではないことは誰にでもわかること。原発、そのものやらないといけないことなのか。一度作ったら、やめることも出来ない。大変な負の物を背負っていかないといけないものを未来に継続していくわけにはいかない。後始末の仕方も分からないんですよね。	MOX燃料は、ウラン燃料と比べ、性質にわずかな違いはありますが、適切に設計・評価に反映することで、ウラン燃料と同様に十分な安全性を確保できます。島根2号機の新規制基準適合性審査（原子炉設置変更許可の審査）においても、MOX燃料が装荷された状態で重大事故が発生したことを想定して評価を実施し、基準を満足することを国（原子力規制委員会）に確認いただき、許可を得ています。当社としては、「事故は起こりうるもの」という前提のもと、新たな規制基準に的確に対応することはもとより、新たな知見も踏まえながら、さらなる安全性の向上を不断に追及し、島根原子力発電所の安全確保に万全を期していく考えです。
7月11日	くにびきメッセ	原子力発電で使う核燃料について、ニュートンプレスの出した手紙の中で、安全性を上げた核燃料を作れないかと書きましたが、これが出来る又はできた場合にはMOX燃料の代わりに使ってみてはどうでしょうか。	MOX燃料は再処理で回収したプルトニウムを発電に利用するための燃料であり、事故耐性燃料は主に被覆管を改良して事故時の耐性を高める燃料となります。それぞれの役割が異なっているため、事故耐性燃料はMOX燃料に置き換えるものではありません。
7月11日	くにびきメッセ	冷却水はどうやって作るの？冷却水が温まったものはどうするの？海に流す→地球温暖化の原因？！	原子力発電所では原子炉で蒸気が発生させて、蒸気の力を利用してタービンによって発電機を回して発電しています。タービンを回したあとの蒸気は復水器で海水によって冷やされ水に戻し、再び原子炉に戻ります。冷却用の海水は復水器を通るときに約6～7℃上昇しますが、温度管理や温排水による周辺海域への影響がないかなど確認を行っています。
7月11日	くにびきメッセ	アトム雑誌は手に取りやすく、大変参考になる。メリットだけでなく、デメリットについても記載してほしいです。	「アトムの広場」は島根県の原子力発電所に関する広報誌であるため、島根県までお問い合わせください。
7月11日	くにびきメッセ	放射性物質があるというのは、危ういものがあるというのは変わらないので、安全に処理する技術を早く確立してほしい。	使用済MOX燃料についても、使用済ウラン燃料と同様に、再処理工場で再処理することとしています。使用済MOX燃料は、使用済ウラン燃料と同様に、再処理工場に搬出するまでの間、島根2号機燃料プールにて安全に保管管理します。使用済MOX燃料を安全かつ確実に処理・処分していくことは極めて重要な課題であると認識しており、当社を含む原子力事業者は、使用済MOX燃料の再処理技術の早期確立を目指し、使用済MOX燃料に関する再処理実証研究の実施に向けた取り組みを進めることとしています。なお、使用済MOX燃料は、これまでに仏国で約70トン、日本で約30トンを試験的に再処理した実績があり、使用済MOX燃料の再処理は技術的に可能であると考えています。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月13日	アルテピア	技術開発をこれからやる、最終処分場も未決の中でリスクが大きすぎるのは自明です。	資源に乏しい日本においては、国の方針として、原子燃料サイクルを確立して進めることとし（技術開発に取り組んでいます）ています。 私ども原子力事業者としては、電気事業連合会内に設置したサイクル推進タスクフォースによる支援を継続するとともに、技術面、マネジメント面で、引き続き日本原燃をオールジャパン体制で、全力で支援してまいります。
7月13日	アルテピア	出てきた使用済MOX燃料をどうするのか。まだ決めていないのにプルサーマル発電するとは。無責任にもほどがある。怒り心頭。	使用済MOX燃料についても、使用済ウラン燃料と同様に、再処理工場で再処理することとしています。 使用済MOX燃料は、使用済ウラン燃料と同様に、再処理工場に搬出するまでの間、島根2号機燃料プールにて安全に保管管理します。 使用済MOX燃料を安全かつ確実に処理・処分していくことは極めて重要な課題であると認識しており、当社を含む原子力事業者は、使用済MOX燃料の再処理技術の早期確立を目指し、使用済MOX燃料に関する再処理実証研究の実施に向けた取り組みを進めることとしています。 なお、使用済MOX燃料は、これまでに仏国で約70トン、日本で約30トンを試験的に再処理した実績があり、使用済MOX燃料の再処理は技術的に可能であると考えています。
7月13日	アルテピア	使用済核燃料の処理ができないのに再稼働するな。日本には資源が山ほどある。	資源の少ない我が国（エネルギー自給率：16.3%、2024年度実績、経済産業省）においては、S+3E（安全性、安定供給、経済効率性、環境適合）を大前提に、個々の電源種（再エネ、原子力、火力等）の特徴を活かしながら、バランスの取れた電源構成としていく必要があると考えています。原子力は、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、実用段階にある脱炭素化の選択肢として、再生可能エネルギーの拡大とともに持続的に活用していく必要があると考えています。 使用済MOX燃料を安全かつ確実に処理・処分していくことは極めて重要な課題であると認識しており、当社を含む原子力事業者は、使用済MOX燃料の再処理技術の早期確立を目指し、使用済MOX燃料に関する再処理実証研究の実施に向けた取り組みを進めることとしています。 第7次エネルギー基本計画（2025年2月18日閣議決定）においても、使用済MOX燃料の再処理については、国際連携による実証研究を含め、2030年代後半を目途に技術を確認すべく研究開発を進めるとともに、その成果を六ヶ所再処理工場に適用する場合を想定し、許認可の取得や実運用の検討に必要なデータの充実化を進めることとされています。
7月13日	アルテピア	処分方法が決まっていない。（地層に埋める、安全・安心と思えないです、地球・自然に生かされていることを忘れていませんか？）処分できないものが増え続けるような発電方法はやってはいけないと思います。どこが安全？自分が投げたボールに責任を持つ、生きている間に解決できない、先が見えない、未来・地球にツケを残すもの、そもそも必要でしょうか。いらないです。	高レベル放射性廃棄物の最終処分については、北海道寿都町および神恵内村、佐賀県玄海町、東京都小笠原村で文献調査が進められているところです。当社としては、高レベル放射性廃棄物の発生者として、国やNUMOとも連携しつつ、地域の皆さまとの対話活動等を通じて、できるだけ多くの皆さまのご関心やご理解が深まるよう取り組んでまいります。 原子燃料サイクルは、ウラン資源の有効活用、廃棄物の減容の観点から極めて重要であり、長期的な視点に立ち、一貫性をもって進めることが肝要と考えています。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月13日	アルテピア	出来てしまった核のゴミを処分困って無理やり考えた対策？	エネルギー基本計画では、使用済燃料を再処理し、回収されるプルトニウムなどを有効利用する原子燃料サイクルの推進が基本方針とされています。 プルサーマル計画の推進は、「エネルギー資源の有効利用」「利用目的のない余剰プルトニウムを持たないという国際公約の履行」「高レベル放射性廃棄物の減容化・有害度の低減」などの観点から極めて重要なものと考えています。 また、高レベル放射性廃棄物の最終処分についても、当社としては、高レベル放射性廃棄物の発生者として、国やNUMOとも連携しつつ、地域の皆さまとの対話活動等を通じて、できるだけ多くの皆さまのご関心やご理解が深まるよう取り組んでまいります。
7月13日	アルテピア	使用済燃料が溜まり続けるとどうなるのか、資料を用いて説明していただきたいです。	島根原子力発電所の運転に伴い発生した使用済燃料は、再処理工場に搬出するまでの間、燃料プールにて安全に保管管理することとしています。 万が一、再処理工場に使用済燃料の搬出ができなかったことを想定し、標準的な運転ケース（13か月運転＋定期事業者検査3か月）を仮定した場合であっても、島根2号機については再稼働後10年程度は燃料プールが満杯になることはないと考えています。 燃料プールが満杯になった場合には、燃料取替ができないこととなりますが、実際の運転期間は標準的なケースどおりになるものではなく、また使用済燃料の発生量（燃料取替体数）も、運転期間、炉心に装荷する燃料に応じて変わることから、燃料プールが満杯になるまでの年数を一概にお示しできるものではありません。
7月13日	アルテピア	使用済核燃料の最終処分場の文献調査に手を挙げている自治体には、なぜ何十億もの交付金が国から支払われるのですか。迷惑料ですか。	特定放射性廃棄物（高レベル放射性廃棄物）の処分地の選定に係る文献調査を受け入れた自治体が、電源立地地域対策交付金の交付対象となっていることは承知していますが、当社は交付金の制度内容等について回答する立場にありません。 なお、交付金の根拠法である「発電用施設周辺地域整備法」では、第1条において「この法律は、電気の安定供給の確保が国民生活と経済活動にとつてきわめて重要であることにかんがみ、発電用施設の周辺の地域における公共用の施設の整備その他の住民の生活の利便性の向上及び産業の振興に寄与する事業を促進することにより、地域住民の福祉の向上を図り、もつて発電用施設の設置及び運転の円滑化に資することを目的とする。」と記載されています。
7月13日	アルテピア	使用済MOX燃料の再処理が確立されていない中で進めていいのか。	使用済MOX燃料についても、使用済ウラン燃料と同様に、再処理工場再処理することとしています。 使用済MOX燃料は、使用済ウラン燃料と同様に、再処理工場に搬出するまでの間、島根2号機燃料プールにて安全に保管管理します。 使用済MOX燃料を安全かつ確実に処理・処分していくことは極めて重要な課題であると認識しており、当社を含む原子力事業者は、使用済MOX燃料の再処理技術の早期確立を目指し、使用済MOX燃料に関する再処理実証研究の実施に向けた取り組みを進めることとしています。 なお、使用済MOX燃料は、これまでに仏国で約70トン、日本で約30トンを試験的に再処理した実績があり、使用済MOX燃料の再処理は技術的に可能であると考えています。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月13日	アルテピア	使用済MOX燃料の再処理の件、全く納得がいきませんでした。経産省の方も中電の方も「可能なはずです」と努力目標を繰り返されるだけで、プルサーマル発電ありきの発言はおかしくもあり、不信感です。	使用済MOX燃料についても、使用済ウラン燃料と同様に、再処理工場で再処理することとしています。 使用済MOX燃料は、使用済ウラン燃料と同様に、再処理工場に搬出するまでの間、島根2号機燃料プールにて安全に保管管理します。 使用済MOX燃料を安全かつ確実に処理・処分していくことは極めて重要な課題であると認識しており、当社を含む原子力事業者は、使用済MOX燃料の再処理技術の早期確立を目指し、使用済MOX燃料に関する再処理実証研究の実施に向けた取り組みを進めることとしています。 なお、使用済MOX燃料は、これまでに仏国で約70トン、日本で約30トンを試験的に再処理した実績があり、使用済MOX燃料の再処理は技術的に可能であると考えています。
7月13日	アルテピア	必要性より安全性。バックエンドプロセスって何ですか。	バックエンドプロセスとは、使用済燃料の再処理を始めとする原子燃料サイクル、円滑かつ着実な廃止措置、高レベル放射性廃棄物の最終処分といった、使用済燃料の取扱いに関する対応を示す言葉です。 なお、プルサーマル発電の実施を含め、安全確保を最優先に取り組みを進めることとしています。
7月13日	アルテピア	通常運転時の安全性についての説明だけでなく、過酷事故が発生した場合のウラン燃料のみとMOX燃料が混ざった状態のリスク比較もしっかり示していただきたい。 大地震だけでなく、テロや有事によって原子力発電所が攻撃対象となることは明らかに燃料プールで火災が発生したときに、どうなるのかは住民に示していただきたい。 住民の多くは原子炉の事故と燃料プールの火災との被害の大きさ、深刻さの違いを理解していない。住民が理解できるように説明していただきたい。説明会の中でそういう資料も用意していただきたい。	島根2号機の新規制基準適合性審査（原子炉設置変更許可の審査）において、MOX燃料が装荷された状態で重大事故が発生したことを想定して評価を実施し、基準を満足することを国（原子力規制委員会）に確認いただき許可を得ています。 当社としては、「事故は起こりうるもの」という前提のもと、新たな規制基準に的確に対応することはもとより、新たな知見も踏まえながら、さらなる安全性の向上を不断に追及し、島根原子力発電所の安全確保に万全を期していく考えです。 なお、大規模な自然災害又は故意による大型航空機の衝突その他のテロリズムによる大規模損壊が発生した場合への対応として、可搬型設備の配備や必要な手順書の整備を実施する等の対策を講じていますが、核物質防護の観点から詳細は差し控えさせていただきます。
7月13日	アルテピア	何で必ずMOX燃料にしないといけないのか。溶液・廃液試験的処理は竣工前にはしてはいけない。再度プルサーマル実施、六ヶ所村再処理工場MOX燃料工場について、一から国民に説明するべき。	エネルギー基本計画では、使用済燃料を再処理し、回収されるプルトニウムなどを有効利用する原子燃料サイクルの推進が基本方針とされています。 プルサーマル計画の推進は、「エネルギー資源の有効利用」「利用目的のない余剰プルトニウムを持たないという国際公約の履行」「高レベル放射性廃棄物の減容化・有害度の低減」などの観点から極めて重要なものと考えています。 なお、溶液・廃液の処理は、再処理施設の信頼性を高める取組みとして、しゅん工前に開始する方針に変更されたものであるが、その内容については、現在、日本原燃が原子力規制委員会と議論しているものと認識しています。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月13日	アルテピア	「日本に資源がない」という答えに対して、日本は資源だらけの国です。太陽も風力も森林も地熱も川の流れも海水の力（潮せき力）もこれだけ豊かな国が持っている資源を活用しないのはもったいない。「エネルギーミックスの考え」は原子力が人類の命を脅かしているというデメリットを軽く見すぎています。ウランやプルトニウムをエネルギーとして使いたいなら放射線を無害にすることができてからにしてください。	電気のエネルギー源には、長所と短所があります。再エネは国産のエネルギーであり、発電時にCO2を出さない等の長所はありますが、一方で、季節・天候・時間帯によって発電量が変動するため、安定供給のためには火力発電などの出力調整が可能な電源や大規模な蓄電池との組み合わせが必要であることなどの課題（短所）を克服していく必要があります。当社としても、再エネの導入を最大限拡大していく考えですが、現時点では、克服していかなければならない種々の課題が残されており、再エネのみで電気をまかなうことは困難です。お客さまに電気を安定的かつ安価にお届けするとともに、地球温暖化対策にも貢献していくためには、再生可能エネルギー・火力・原子力をバランスよく組み合わせること、それぞれの短所を補い合うことが必要だと考えています。
7月13日	アルテピア	事故が起きた場合に影響のあるエリア（おそらく数百km圏内）の全自治体で、福島原発事故の現状を共有し、「自分の暮らすエリアで同じことが起きるかもしれない」という事実を伝えたくて、島根原発が必要かどうか、一人ひとりしっかりと確認をとってください。エリア内の90%以上の人々がOKというのであれば納得できます。いや、やはり納得できません。これから先、数百年後の未来まで、人を含めたあらゆる生物が命を育むことのできる土、海を残して行くことが、今生きている人間の責任です。中国電力のみなさま、胸に手を当てて心から責任について考えてみてください。お願いします。	当社としては、「事故は起こりうるもの」という前提のもと、新たな規制基準に的確に対応することはもとより、新たな知見も踏まえながら、さらなる安全性の向上を不断に追及し、島根原子力発電所の安全確保に万全を期してまいります。
7月13日	アルテピア	広く市民に説明するということならライブ配信・録画の公開をお願いしたい。録音・録画が不可なのはなぜか。	説明会当日、会場にお越しいただけなかった方にもご覧いただけるよう、ホームページ上で、資源エネルギー庁および当社の説明箇所の動画、質疑の議事録を公開しています。
7月13日	アルテピア	「国で決まったから」は、受け身の姿勢ではないでしょうか。住民の意見、疑問を受け止めたのち、一個人としての考えは持たれないのでしょうか。とても住民の声を聞く理解のための説明会を聞いているとは思えません。	プルサーマル計画の推進は、「エネルギー資源の有効利用」「利用目的のない余剰プルトニウムを持たないという国際公約の履行」「高レベル放射性廃棄物の減容化・有害度の低減」などの観点から極めて重要なものと考えています。資源に乏しい日本は、そのほとんどを海外からの輸入に頼り、自給率はわずか16.3%（2024年度実績：経済産業省）です。日本にとってプルサーマルは、長期的なエネルギー資源の確保、すなわち、皆さまに安定して電気をお届けするためにも、必要な取り組みの一つであると考えています。
7月13日	アルテピア	今日の説明にあったような方法で、いのちを脅かして発電をして、今後更に電気が沢山必要になるとおっしゃるけど、そういう流れにしてきたこと自体が国の方針であって電気を使うのも私たち人間自身なのに、事故がおきて、電気を使う私たち人間のいのち自体が脅かされ、電気を使ういのちが亡くなってしまったら、いったい誰の為に発電をするんですか。	当社としては、「事故は起こりうるもの」という前提のもと、新たな規制基準に的確に対応することはもとより、新たな知見も踏まえながら、さらなる安全性の向上を不断に追及し、島根原子力発電所の安全確保に万全を期してまいります。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月13日	アルテピア	将来のためと言われるが、10万年が8千年になろうが、未来につけを回すことを、近々の将来のためという理由でこのまま進めることはできません。プルサーマルと六ヶ所村再処理の安全性が明確にされて、納得できない限り、プルサーマルも原発自体を止めて説明しつくさない限り進めてはいけません。	エネルギー基本計画では、使用済燃料を再処理し、回収されるプルトニウムなどを有効利用する原子燃料サイクルの推進が基本方針とされています。 プルサーマル計画の推進は、「エネルギー資源の有効利用」「利用目的のない余剰プルトニウムを持たないという国際公約の履行」「高レベル放射性廃棄物の減容化・有害度の低減」などの観点から極めて重要なものと考えています。 当社としては、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組みながら、安全確保を最優先にプルサーマル発電の実施に取り組みを進めてまいります。 なお、日本原燃の再処理工場では、現在、新規規制基準への対応に関する設工認の審査と安全対策工事を行っているところです。
7月13日	アルテピア	原発で儲けるより、再エネで商売する方がこれからは中電は儲かりますよ。世界の国々がそうですからね。	電気のエネルギー源には、長所と短所があります。再エネは国産のエネルギーであり、発電時にCO2を出さない等の長所はありますが、一方で、季節・天候・時間帯によって発電量が変動するため、安定供給のためには火力発電などの出力調整が可能な電源や大規模な蓄電池との組み合わせが必要であることなどの課題（短所）を克服していく必要があります。 当社としても、再エネの導入を最大限拡大していく考えですが、現時点では、克服していかなければならない種々の課題が残されており、再エネのみで電気をまかなうことは困難です。 お客さまに電気を安定的かつ安価にお届けするとともに、地球温暖化対策にも貢献していくためには、再生可能エネルギー・火力・原子力をバランスよく組み合わせること、それぞれの短所を補い合うことが必要だと考えています。
7月13日	アルテピア	まだまだ納得はいいいていません。丁寧な説明に努めると言われました。改めての説明をお願いします。見切り発車はダメですよ。	現時点で、当社主催のプルサーマルに係る説明会の追加開催の予定はありませんが、説明会という場に限らず、こうしたさまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう、引き続き、丁寧な説明・対話に取り組んでまいります。
7月13日	アルテピア	これから電力が増える？本当でしょうか？人口減、技術の進歩により電力は減っていくのでは。減らしていく暮らしに変えていくことも出来る。自然を大切に暮らすにする。出来ることはやっていきたいです。	人口の減少や省エネルギーの浸透などにより、2007年以降、電力需要が減少傾向にありましたが、今後、DX（デジタルトランスフォーメーション）やGX（グリーントランスフォーメーション）の進展により、電力需要が増加に転じることが見込まれています。
7月13日	アルテピア	40年以上たった施設で新たな発電？あり得ないですか。40年もたった施設、公民館、役所などを見ていると水道壊れる、電気設備壊れる、壁・床はがれる、窓が閉まらない、不安しかありません。	原子力発電所は、運転開始から30年以降の運転を継続しようとする場合、10年を超えない期間ごとに、設備の劣化に関する技術的な評価を行い、評価結果を踏まえた施設管理等を定める「長期施設管理計画」を策定し、原子力規制委員会の認可を受ける必要があります。 40年超運転については、特別点検を実施し、安全性を確認したうえで、供給面、経済面、環境面等を総合的に勘案して判断することとしており、現時点で決まったものではありませんが、当社としては、発電所設備の適切な施設管理に努め、発電所の安全確保に万全を期してまいります。
7月13日	アルテピア	安全ではないという確信がえられました。ありがとうございます。福島が住める町になったら安全だと認めることができます。よろしくお願いします。	当社としては、「事故は起こりうるもの」という前提のもと、新たな規制基準に的確に対応することはもとより、新たな知見も踏まえながら、さらなる安全性の向上を不断に追及し、島根原子力発電所の安全確保に万全を期してまいります。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月13日	アルテピア	近年ヒューマンエラーによる失策が続いています。万全な対策がないことは理解していますが、それがヒューマンエラーによる失敗であっては信頼がゆるぎます。関わる人が多くなればなるほど難しいこととは思いますが、新しいことを始めるなら、より一層襟を正していただきたいと思います。	燃料支持金具の相違や火災について、地域の皆さまをはじめ、多くの関係の方々にご心配をおかけしていることをお詫び申し上げます。当社としては、協力会社とともに、このたび策定した再発防止策を確実に実施し、発電所の安全管理に万全を期してまいります。
7月13日	アルテピア	本日はご説明をいただき有難かったですが、まだまだ「万が一」の場合への対応策の手薄さが気になります。本日伺いしたことを踏まえ勉強したく思います。今年度中くらいで再度安来でも説明会を開催して頂きたいです。	当社としては、「事故は起こりうるもの」という前提のもと、新たな規制基準に的確に対応することはもとより、新たな知見も踏まえながら、さらなる安全性の向上を不断に追及し、島根原子力発電所の安全確保に万全を期していく考えです。 現時点で、当社主催のプルサーマルに係る説明会の追加開催の予定はありませんが、説明会という場に限らず、こうしたさまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう、引き続き、丁寧な説明・対話に取り組んでまいります。
7月13日	アルテピア	原子力発電をやり玉に上げ、主語が私ではなく「市民」「国民」といった大きく見せる、人を馬鹿にした人々の駄弁に臆することなく、今後も大多数の一般市民のために丁寧な説明を尽くしていただくようお願いいたします。対等な立場で話をする気のない人間を相手にする必要はありません。	当社としては、引き続き、発電所見学会や広報誌、ホームページ等も含め、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組んでまいります。
7月13日	アルテピア	島根でプルサーマルは受け入れられません。最低でも当たり前の事が決まってからにしろ。意志だけでは事故は防げない。	プルサーマル計画の推進は、エネルギー資源の有効利用により安定供給に寄与することに加え、「利用目的のないプルトニウムを持たない」との方針を堅持する上でも、極めて重要なものと考えています。 当社としては、「事故は起こりうるもの」という前提のもと、新たな規制基準に的確に対応することはもとより、新たな知見も踏まえながら、さらなる安全性の向上を不断に追及し、島根原子力発電所の安全確保に万全を期してまいります。
7月13日	アルテピア	次回の説明会を設定してほしい。質問は多すぎて書ききれません。	当社は、プルサーマルについて多くの皆さまに理解を深めていただくため、地域の皆さまへの説明会の開催のほか、発電所見学会の機会を捉えた説明、広報紙の6市（松江市、安来市、出雲市、雲南市、米子市、境港市）全域への新聞折込（約19万部）および公民館等への配布・説明、ホームページでの情報提供、報道発表等を通じた広報・対話活動を実施しています。 また、日々の公民館訪問やエネルギー勉強会などの出前講座などにおいても地域の皆様と対話を重ねているところであり、こうした機会に寄せられるご意見やご質問についても丁寧に回答するなど、地域の皆さまの理解が一層深まるよう取り組んでいます。
7月13日	アルテピア	今後も説明会を繰り返しお願いします。国の人もお招きください。又来ます。	現時点で、当社主催のプルサーマルに係る説明会の追加開催の予定はありませんが、説明会という場に限らず、こうしたさまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう、引き続き、丁寧な説明・対話に取り組んでまいります。 なお、説明会当日、会場にお越しいただけなかった方にもご覧いただけるよう、ホームページ上で、資源エネルギー庁および当社の説明箇所の動画、質疑の議事録を公開しています。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月14日	ビックハート出雲	プルサーマルを含めて原発を推進する方々は人間の手に負えないものを作り出している。責任を負って仕事をしているのか？自分の子や孫にどう説明するのか？一人一人に聞きたい。	MOX燃料は、ウラン燃料と比べ、性質にわずかな違いはありますが、適切に設計・評価等に反映することで、ウラン燃料と同様に十分な安全性を確保できます。当社としては、「事故は起こりうるもの」という前提のもと、新たな規制基準に的確に対応することはもとより、新たな知見も踏まえながら、さらなる安全性の向上を不断に追及し、島根原子力発電所の安全確保に万全を期してまいります。
7月14日	ビックハート出雲	原子力というのは、害の全くないものではないということ程度しかわかりませんが、部品を間違えたり、火災を起こしたりするようなところには、人に害のあるものをまかせられるとは思いません。	燃料支持金具の相違や火災について、地域の皆さまをはじめ、多くの関係の方々にご心配をおかけしていることをお詫び申し上げます。当社としては、協力会社とともに、このたび策定した再発防止策を確実に実施し、発電所の安全管理に万全を期してまいります。
7月14日	ビックハート出雲	フランスやドイツなどのヨーロッパと違い、日本は地震がとて多く、島根原発は県庁所在地にあります。被害が起こらないように、起きた場合の現実的な対応も必要だと思います。原発による被害を受けるのは中電の方だけではなく、そこに昔から住んでいる市民だということを改めて認識お願いします。	当社としては、福島第一原子力発電所の事故の教訓を踏まえ「事故は起こりうるもの」という前提のもと、新たな規制基準に的確に対応することはもとより、新たな知見も踏まえながら、さらなる安全性の向上を不断に追及し、島根原子力発電所の安全確保に万全を期していく考えです。また、万が一の事故が発生した場合の避難計画についても、新たな知見や訓練等の検証を踏まえ、住民避難の実効性向上が図られていくものと認識しており、当社としても最大限対応してまいります。
7月14日	ビックハート出雲	燃料支持金具の誤取付について、1995年から2026年まで、結果が制限値に満たなかったのに、その原因究明をしなかったのか？たまたま重大事故にはつながらなかったが、なあなあで済ませてしまう姿勢は、「危険な物を取り扱う管理能力」を問われる事になる（私は心配で不安です）。	運転時の燃料の健全性を確認する「最小限界出力比」が、運転上の制限を満足していることの確認は、炉心性能計算機から出力される帳票により確認を行っていますが、仕様どおりの燃料支持金具が設置されている前提となっていたことから、出力された値は運転上の制限を満足していたため、LCO逸脱ではないと判断していました。原因調査結果を踏まえ、模擬品と正規品を明確に識別できるよう、設計や識別表示、仮置き場所の区分などの配慮を行う再発防止策を策定しました。当社としては、協力会社とともに、策定した再発防止策を確実に実施し、発電所の安全管理に万全を期してまいります。
7月14日	ビックハート出雲	「未来に向けた画期的な技術」ではなく、「人の手で制御しきれない危険な物」という意識を持ち続けてください。	当社としては、「事故は起こりうるもの」という前提のもと、新たな規制基準に的確に対応することはもとより、新たな知見も踏まえながら、さらなる安全性の向上を不断に追及し、島根原子力発電所の安全確保に万全を期していく考えです。
7月14日	ビックハート出雲	島根原発の稼働を即刻停止し、元の安全安心の国土、郷土に戻してほしい。現状復帰です。お願いいたします。今さえよければそれでよいのですか？未来の人々に対してあまりにも無責任だと思います。放射性物質を無害化する技術を人間が手に入れてから原子力の利用をするべきだったと思います。人間的良心に照らして、ご判断され、対話の場を設けられたこと自体は評価します。	ウクライナ問題の長期化や中東情勢などを受け、燃料の確保に係る不確実性が高まる中、お客さまへ低廉かつ安定的に電気をお届けするため、さらにはカーボンニュートラルの実現に向け、安全確保を大前提とした原子力発電の活用は不可欠だと考えています。今後も引き続き、様々な機会を通じて当社の取り組みを分かりやすく丁寧に説明し、より多くの地域の皆さまにご理解を深めていただけるよう努めてまいります。
7月14日	ビックハート出雲	いったん事故がおこると貴重な国土を破損し、多数の人々の生活を根底から失わせてしまう危険性を考えると本来的に行うべき手段ではないでしょう。	当社としては、「事故は起こりうるもの」という前提のもと、新たな規制基準に的確に対応することはもとより、新たな知見も踏まえながら、さらなる安全性の向上を不断に追及し、福島第一のような事故を二度と起こさないという強い決意をもって、島根原子力発電所の安全性向上に努めてまいります。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月14日	ビックハート出雲	東日本大震災以降、徹底的な安全策がとられたはずなのに、部品のとりちがえを見逃していたのはなぜか？結局、人間がやることに“完全はない”ということでは？	誤った燃料支持金具を設置した原因は、当時、仕様確認等の作業手順に係る運用基準の一部を明確に定めていない中で、燃料支持金具をつかむ装置の動作確認用の模擬品が、正規品と明確に識別できるよう設計されていなかったことや、仮置き時の配慮が不足していたことなどから、模擬品を正規品と取り違えて設置したものと推定しています。 地域の皆さまをはじめ、多くの関係者の皆さまにご心配をおかけしたことをお詫び申し上げます。 当社としては、協力会社とともに、策定した再発防止策を確実に実施し、発電所の安全管理に万全を期してまいります。
7月14日	ビックハート出雲	プルサーマルは安全性が上がるが、対策できるとしており、上がる安全性問題に対する不安増大であることは変らない。	MOX燃料は、ウラン燃料と比べ、性質にわずかな違いはありますが、適切に設計・評価等に反映することで、ウラン燃料と同様に十分な安全性を確保できます。 MOX燃料の特性を踏まえ、ウラン燃料と適切に組み合わせ、安全性の基準を十分に満足するよう炉心設計することから、ウラン燃料のみを使用する場合と安全性に差はないものと考えています。 当社としては、引き続き、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組みながら、安全確保を最優先にプルサーマル発電の実施に向けた取り組みを進めてまいります。
7月14日	ビックハート出雲	本日の説明会で“人為的ミスによって”様々な事故が起きかけていることの具体的な理解を少し得ることができました。しかし、それ故に新たにプルサーマルをされることへの不安危惧は高まったように感じています。高速増殖炉でもうまくいかない発電が、“福島事故を起こした型と同じ原子炉”で事故なく安全に運転できるのでしょうか。輸送の問題についても、テロや天災、戦争など、不測の事態に備えられているのでしょうか。	燃料支持金具の相違や火災について、地域の皆さまをはじめ、多くの関係の方々にご心配をおかけしていることをお詫び申し上げます。当社としては、協力会社とともに、このたび策定した再発防止策を確実に実施し、発電所の安全管理に万全を期してまいります。 当社としては、「事故は起こりうるもの」という前提のもと、新たな規制基準に的確に対応することはもとより、新たな知見も踏まえながら、さらなる安全性の向上を不断に追及し、島根原子力発電所の安全確保に万全を期してまいります。
7月14日	ビックハート出雲	スケジュールありきで進める物ではないと言いながら、六ヶ所再処理工場の準備が整わない中で、計画を進めているのは矛盾しているように思える。	六ヶ所再処理工場の竣工に向けては、引き続き、日本原燃を全面的に支援してまいります。 また、高レベル放射性廃棄物の最終処分については、国やNUMOとも連携しつつ、地域の皆さまとの対話活動等を通じて、できるだけ多くの皆さまのご関心やご理解が深まるよう取り組んでまいります。 当社としては、引き続き、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組みながら、安全確保を最優先にプルサーマル発電の実施に向けた取り組みを進めてまいります。
7月14日	ビックハート出雲	なぜ再処理によって、直接処分だと10万年かかる有害度低減が8千年や300年になるのか、ふつう考えるとそれだけ強力な放射線が発生するのでは？結局、有害なものは燃やしつづけるということ？	使用済燃料を再処理することにより、半減期が長いウラン・プルトニウム等を回収し利用し、マイナーアクチニドと核分裂生成物をガラス固化体として処分するため、使用済燃料を直接処分する場合よりも、高レベル放射性廃棄物の有害度低減の効果があります。
7月14日	ビックハート出雲	プルサーマルの実施により、日本のプルトニウムの保有量は何%程度減るのか？プルトニウムの保有量をへらす効果はどの程度？	プルトニウムをMOX燃料として利用することにより、国全体のプルトニウムの保有量を減少させることに寄与することができます。 なお、保有量の減少割合は、各プラントの運転状況等に応じ変化することになります。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月14日	ビックハート出雲	使い終わったMOX燃料を再処理できない現状で見切り発車すべきではないのでは？	使用済MOX燃料を安全かつ確実に処理・処分していくことは極めて重要な課題であると認識しており、当社を含む原子力事業者は、使用済MOX燃料の再処理技術の早期確立を目指し、使用済MOX燃料に関する再処理実証研究の実施に向けた取り組みを進めることとしています。 第7次エネルギー基本計画（2025年2月18日閣議決定）においても、使用済MOX燃料の再処理については、国際連携による実証研究を含め、2030年代後半を目途に技術確立すべく研究開発を進めるとともに、その成果を六ヶ所再処理工場に適用する場合を想定し、許認可の取得や実運用の検討に必要なデータの充実化を進めることとされています。
7月14日	ビックハート出雲	プルトニウムをためすぎずないことで再利用しようというのは順序としておかしいのでは。	プルサーマルは、使用済燃料を「資源」として考え再処理し、回収した資源を有効に活用する原子燃料サイクルの一環です。プルトニウムは使用済燃料の再処理により回収される有用な資源であり、これをMOX燃料として再利用することで、資源の有効利用に繋がるものです。 また、我が国の「利用目的のないプルトニウムを持たない」との国際公約の履行の観点からも、極めて重要なものと考えています。
7月14日	ビックハート出雲	放射性廃棄物の最終処分はないので、（廃棄物が）溜まるっぽうです。こうしたとき、新たなMOX廃棄物を出すのは、正しくないのでは。	プルサーマル計画の推進は、エネルギー資源の有効利用、使用目的のない余剰プルトニウムを持たないという国際公約履行の観点等から極めて重要なものと考えています。 高レベル放射性廃棄物の最終処分場については、国やNUMOとも連携しつつ、地域の皆さまとの対話活動等を通じて、できるだけ多くの皆さまのご関心やご理解が深まるよう取り組んでまいります。
7月14日	ビックハート出雲	ウラン燃料、何回くらい再利用できるのか。	使用済MOX燃料の再処理により得られたプルトニウムから製造したMOX燃料は、使用済ウラン燃料から回収されたプルトニウムと混合し、核分裂性プルトニウムの割合を高めることにより、軽水炉で繰り返し使用することが可能と考えています。
7月14日	ビックハート出雲	MOX燃料の使用実績はかなりあるということですが、さらに再利用したMOX燃料を使用した例は世界でもない。新たな試みということですか。	国内においては、「ふげん」自身の使用済MOX燃料から回収されたプルトニウムを再利用した実績があります。 なお、仏国にて、使用済MOX燃料から回収されたプルトニウムを再利用した実績はあると聞いていますが、詳細は承知していません。
7月14日	ビックハート出雲	資料1（19ページ、20ページ）MOX燃料の使用期間が短い理由の説明が必要ではないでしょうか？	ウラン燃料とMOX燃料の使用期間の差は、MOX燃料における燃焼に寄与する核分裂性物質の量が、現在使用しているウラン燃料と比較して少ない設計となっているためです。 なお、MOX燃料は、ウラン燃料と比べ、わずかな性質の違いはありますが、適切に設計・評価に反映することで、十分な安全性を確保できると考えており、また、プルサーマル発電を行うことによる運転の違いはなく、安全上問題となることはありません。
7月14日	ビックハート出雲	最終処分が決まっていなのに、使用済燃料は増え続けている。中間貯蔵が増えていることが不安・不満です。隣家の庭にゴミが置きっぱなしにされている気分です。子孫（次世代）に申し訳ない気持ちです。3・11を経験して教訓にできなかったのかと、後に歴史に問われてしまいます。	高レベル放射性廃棄物の最終処分場については、国やNUMOとも連携しつつ、地域の皆さまとの対話活動等を通じて、できるだけ多くの皆さまのご関心やご理解が深まるよう取り組んでまいります。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月14日	ビックハート出雲	最終処分に関する費用負担まで考えた上で、それでも有効なのか？ そもそも原子力発電が適切なのか？	原子力発電は、最終処分に関する費用負担も含め、他の電源と比較して遜色のない水準と考えています。（廃炉費用、核燃料サイクル費用〔放射性廃棄物最終処分含む〕など将来発生するコスト、事故対応費用〔損害賠償、除染含む〕、電源立地交付金・もんじゅなどの研究開発等の政策経費といった社会的費用も含む）
7月14日	ビックハート出雲	なぜここまでコストをかけて危険な原子力をわざわざやらないといけなの？ 廃棄物の処理も含めるととてもペイできないのでは？	資源の少ない我が国においては、S+3E（安全性、安定供給、経済効率性、環境適合）を大前提に、個々の電源種（再エネ、原子力、火力等）の特徴を活かしながら、バランスの取れた電源構成としていく必要があると考えています。原子力は、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、実用段階にある脱炭素化の選択肢として、再生可能エネルギーの拡大とともに持続的に活用していく必要があると考えています。
7月14日	ビックハート出雲	コストについては説明がなかったが、かなりかかるらしい。	MOX燃料は、ウラン燃料と比較して価格面では高額になりますが、具体的な価格については、契約に関する事項であり、回答は差し控えます。しかしながら、使用済燃料を再処理して回収するプルトニウムをMOX燃料として再利用することにより、約1割～2割のウラン資源が節約できることから、エネルギー資源の有効活用につながると考えています。
7月14日	ビックハート出雲	経済の面から見れば前向きに進めるべきである。	プルサーマル計画の推進は、エネルギー資源の有効利用、使用目的のない余剰プルトニウムを持たないという国際公約履行の観点等から極めて重要なものと考えています。当社としては、プルサーマル計画について、地域の皆さまのご理解を賜りながら進めていけるよう最大限努力してまいります。
7月14日	ビックハート出雲	エネルギー需要は脱炭素が大切。原子力は二酸化炭素が出ないが、別の廃棄物が出るなら問題は解決しないのでは。今すべきことは原発開発ではなく、再生可能エネルギーの効率を上げる研究に力を入れることがと思う。	当社としても、原子力発電に伴う高レベル放射性廃棄物の発生者としての基本的な責任を有する立場から、NUMOの活動を全力で支えつつ、地層処分事業の必要性や安全確保の考え方について幅広く国民の皆さまのご理解が得られるよう、国やNUMOとも連携を図りながら、分かりやすい情報提供や地域の皆さまとの対話活動等に自らも主体的かつ積極的に取り組んでまいります。再生可能エネルギーについても、最大限の導入および活用の拡大を進めるとともに、電力の安定供給の観点からは揚水発電や系統用蓄電池、火力発電等を活用した調整力の確保が課題の一つと認識しており、「再エネ導入拡大」と「調整力確保」を両輪で進めているところです。
7月14日	ビックハート出雲	説明会ありがとうございました。自分は何を言っておられるのかさっぱりだったので、もう少し専門知識のない人にもわかる内容があるとうれしかったです。これからもう少し勉強しますね。	当社としては、引き続き、発電所見学会や広報誌、ホームページ等も含め、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組んでまいります。
7月14日	ビックハート出雲	本日の説明を拝聴した上でも、容認できるものでは到底ありませんでした。出雲市民として断固、反対を表明させていただきます。原発の稼働、特にプルサーマル発電については、出雲市民として受け入れることは出来ません。この説明会をもって、出雲市民の理解が得られた、といったことを発表してほしいはありません。出雲市民へ多くが反対しています。断固反対です。	当社としては、説明を聞いていただいた方の受け止めについて申し上げる立場にありませんが、引き続き、発電所見学会や広報誌、ホームページ等も含め、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組んでまいります。
7月14日	ビックハート出雲	「丁寧な説明を尽くした」をどう判断されますか？ 反対が多くあることを受け止めてください。出雲市民17万人います。	当社としては、理解活動に終わりはないと考えており、引き続き、発電所見学会や広報誌、ホームページ等も含め、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組んでまいります。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月14日	ビックハート出雲	内容が難しいので、もっと時間が欲しかったです。基礎的な質問もあるので、そんなトップクラスの人ばかりでなくてもよいのでは、と思いました。	当社としては、引き続き、発電所見学会や広報誌、ホームページ等も含め、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組んでまいります。
7月14日	ビックハート出雲	フランスから60体持ってくるということも、稼働する前提に聞こえましたが、ただの説明手続きでないことを願います。	当社としては、引き続き、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組みながら、安全確保を最優先にプルサーマル発電の実施に向けた取り組みを進めてまいります。
7月14日	ビックハート出雲	エネルギー資源のない日本にとって、原子力発電は非常に大切だと思っていました。具体的な説明ありがとうございます。再稼働もですが、原発のリプレイスについても伺いたいです。これ以上リプレイスを先延ばしにすると、日本は原発を作ることが出来なくなると思います。日本の産業を守るため、安い安定したエネルギー源は大切です。反対派も多いとは思いますが。	原子力は、2050年カーボンニュートラルの実現に向け、実用段階にある脱炭素化の選択肢として、より重要性が高まってくるものと認識しており、今後も一定規模を持続的に活用していくためにも、新增設・リプレイスが自ずと必要になると考えていますが、島根原子力サイト内での建て替えについて、現時点で決まったものではありません。当社としては、安全確保を大前提とした島根2号機の安定運転の継続、および島根3号機の早期稼働に向けた取り組みを進めてまいります。
7月14日	ビックハート出雲	中国電力で供給されている電気を使っていない。未来へ責任が負えないから。	当社としては、引き続き、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組みながら、安全確保を最優先にプルサーマル発電の実施に向けた取り組みを進めてまいります。
7月14日	ビックハート出雲	今回の説明会で聞いた人々は反対の人々が大多数であった。	当社としては、引き続き、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組みながら、安全確保を最優先にプルサーマル発電の実施に向けた取り組みを進めてまいります。
7月14日	ビックハート出雲	とにかく、原発は廃炉しかありません。	資源の少ない我が国（エネルギー自給率：16.3%、2024年度実績、経済産業省）においては、S+3E（安全性、安定供給、経済効率性、環境適合）を大前提に、個々の電源種（再エネ、原子力、火力等）の特徴を活かしながら、バランスの取れた電源構成としていく必要があると考えています。原子力は、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、実用段階にある脱炭素化の選択肢として、再生可能エネルギーの拡大とともに持続的に活用していく必要があると考えています。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月15日	チェリヴァホール	3号機が運転可能になる時期を知りたい。夏季や冬季の需要期に安定した電力供給を期待しており、電気料金も少しでも安くなればありがたい。	当社の発電事業におけるCO2削減目標（2030年度CO2排出量半減〔2013年度比〕）も踏まえて、2030年度までの運転開始を目指すこととしていますが、実際の運転開始に向けては、現在審査中の適合性審査に合格することや、地域のご理解をいただく必要があることから、運転開始時期を具体的に申し上げられる段階にありません。
7月15日	チェリヴァホール	人は失敗をするものであり、原子力発電では失敗が許されない。危機感を持って業務に取り組んでほしい。中国電力に不正がないことを信じている。	発電所の安全性確保のためには、原子力安全文化の醸成に継続して取り組んでいくことも重要であると認識しています。 発電所で働く社員のみならず協力会社を含めコンプライアンス意識や原子力安全文化を維持・向上していけるよう、日々の研修や行動の振り返りなどを継続して実施しています。毎年6月の「原子力安全文化の日」では、社長が現地で誓いの鐘を鳴らし、当社および協力会社社員とともに安全文化の大切さを再確認し、過去の不適切事案を風化させないよう取り組んでいるところです。さらには、原子力安全文化有識者会議において当社の安全文化の醸成に係るアドバイス等をいただくなど、第三者の視点も取り入れることで、安全文化の浸透に努めています。 協力会社の安全文化醸成に向けては、当社役員と協力会社社員との対話活動、協力会社に対する表彰等を実施しています。
7月15日	チェリヴァホール	プルサーマルを実施すると電気料金は高くなるのか。	原子力発電では、発電費に占める燃料費の割合が小さいため、MOX燃料の使用が原子力発電コストに与える影響は小さいと考えています。 2024年度のコスト検証（総合エネルギー調査会）では、核燃料サイクル関連の費用は1.9円/kWhと試算されており、その内、MOX燃料の製造費用は0.1円/kWhと試算されており、原子力発電全体の発電コストに占めるMOX燃料製造費用の割合は約1%未満と試算されています。
7月15日	チェリヴァホール	丁寧な説明への感謝。安全に再利用できるのであれば実施すべきと考える。温暖化防止や安定供給の観点から原子力発電に期待しており、引き続き安定供給をお願いしたい。	当社としては、引き続き、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組みながら、安全確保を最優先にプルサーマル発電の実施に向けた取り組みを進めてまいります。
7月15日	チェリヴァホール	プルサーマルに関する質問と回答を地域住民にも広く周知してほしい。	説明会当日会場にお越しいただけなかった方にも、ホームページ上で、資源エネルギー庁および当社の説明箇所の動画、質疑の議事録についてもご覧いただけるようにしています。 当社としては、引き続き、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組みながら、安全確保を最優先にプルサーマル発電の実施に向けた取り組みを進めてまいります。
7月15日	チェリヴァホール	今後も説明の機会を継続してほしい。資源エネルギー庁と中国電力の説明内容のつながりや、エネルギー政策全体像も示してほしい。	当社としては、引き続き、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組みながら、安全確保を最優先にプルサーマル発電の実施に向けた取り組みを進めてまいります。
7月15日	チェリヴァホール	島根原発2号機の発電電力が各県へどの程度供給されているのか内訳を知りたい。	島根2号機で発電した電力は、送電網に流れ込むため、特定の県への供給内訳についてお示しできるものではありません。 なお、島根2号機は、山陰両県の1年間の電力需要（kWh）の6割程度をまかなうことができる規模です。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月15日	チェリヴァホール	初めてプルサーマルについて学んだが難しかった。もっと勉強しないといけないと感じた。	当社としては、引き続き、発電所見学会や広報誌、ホームページ等も含め、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組んでまいります。
7月15日	チェリヴァホール	丁寧な説明いただきありがとうございました。 賛否あるのは理解できます。しかし、安全に再利用できるなら、やらない理由はないと考えます。 世の中に電気は必要なのは言うまでもありませんが、温暖化防止も含め、原子力の力でよりクリーンな平和な地球になることを切に願います。 本日も暑い日でしたが、電気が無ければ熱中症になるケースの方がよりリスクが高いと思います。引き続き安定電力供給できるようよろしくお願いいたします。 どのような質問にも丁寧に答えていただきました。国民全ての為に将来を考えていただき安心した説明会でした。	当社としては、今後、エネルギーの安定供給、経済性等を勘案しつつ、再エネの導入量を最大限拡大するとともに、安全確保を大前提とした島根2号機の安定稼働、島根3号機の早期稼働、またカーボンニュートラルな火力の活用等により、脱炭素化を目指してまいります。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月27日	境港市文化ホール	原発はやっぱり共存できないものだと思います。事故が起きた後、やめる方向ではなかったのでしょうか。説明はすべて大丈夫、十分安全性を考えているから、電気はほとんど必要になっているのだからという説明しかされていません。質問の中でリスクについての説明もちゃんとして住民が判断できるようにしないとイケないのではないかとすることに同感します。	福島第一原子力発電所の事故の教訓を踏まえ、原子力規制委員会は、従来の原子力発電所の規制から大幅に強化した、新たな規制基準を策定しました。 当社としては、「事故は起こりうるもの」という前提のもと、新たな規制基準に的確に対応することはもとより、新たな知見も踏まえながら、さらなる安全性の向上を不断に追及し、島根原子力発電所の安全確保に万全を期してまいります。
7月27日	境港市文化ホール	プルサーマル計画の必要性はわかった。メリットの羅列で、一部デメリットの資料があったが、今後の関連施設の竣工が計画通りできるのか。デメリットもしっかり出してほしい。	プルサーマルはエネルギー資源の有効利用により安定供給に寄与する一方で、使用済燃料のリサイクルを行うための再処理施設などが必要となることから、MOX燃料はウラン燃料と比較して費用は高くなります。しかしながら、原子力発電では、発電費に占める燃料費の割合が小さいため、MOX燃料の使用が原子力発電コストに与える影響は小さいものになります。
7月27日	境港市文化ホール	プルサーマルのメリットを感じられない。MOX燃料の単価が10倍になる（高浜3号機）ことは分かっています。メリットがあるとすれば、40年超の認可を得て、長く使うことのメリットです。このような条件（40年超の認可）を国から言われてませんか。	MOX燃料は、ウラン燃料と比較して価格面では高額になりますが、具体的な価格については、契約に関する事項であり、回答は差し控えます。 しかしながら、使用済燃料を再処理して回収するプルトニウムをMOX燃料として再利用することにより、約1割～2割のウラン資源が節約できることから、エネルギー資源の有効活用につながると考えています。 プルサーマル計画の推進は、「エネルギー資源の有効利用」「利用目的のない余剰プルトニウムを持たないという国際公約の履行」「高レベル放射性廃棄物の減容化・有害度の低減」などの観点から極めて重要なものと考えています。 資源に乏しい日本は、そのほとんどを海外からの輸入に頼り、自給率はわずか16.3%（2024年度実績：経済産業省）です。日本にとってプルサーマルは、長期的なエネルギー資源の確保、すなわち、皆さまに安定して電気をお届けするためにも、必要な取り組みの一つであると考えています。 島根2号機については、最大限活用していきたいと考えていますが、40年超運転については、特別点検を実施し、安全性を確認したうえで、供給面、経済面、環境面等を総合的に勘案して当社として判断することとしており、現時点で決まったものではありません。
7月27日	境港市文化ホール	国産のMOXができていない、外国産は高く、不安定供給がある。	資源に乏しい日本においては、国の方針として原子燃料サイクルを確立して進めることとしています。 私ども原子力事業者としては、電気事業連合会内に設置したサイクル推進タスクフォースによる支援を継続するとともに、経営層への支援も強化し、技術面、マネジメント面で、引き続き日本原燃をオールジャパン体制で、全力で支援してまいります。
7月27日	境港市文化ホール	六ヶ所再処理工場は海岸沿いなのか。津波対策は万全にできているのか。	六ヶ所再処理工場は、海岸から約5km、標高約55mの位置に立地しており、再処理工場は想定される津波の高さに対して十分高く立地しているものと認識しています。 (https://www.jnfl.co.jp/ja/special/our-maximum-priority/)
7月27日	境港市文化ホール	早く高レベル放射能の最終処分場が決まってないので、順序はこれが先だと思います。	高レベル放射性廃棄物の最終処分については、国やNUMOとも連携しつつ、地域の皆さまとの対話活動等を通じて、できるだけ多くの皆さまのご関心やご理解が深まるよう取り組んでまいります。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月27日	境港市文化ホール	プルサーマル実施による、島根原発の使用済燃料の年毎の推移はどうか。	通常のウラン燃料は装荷後4～5サイクル※程度の使用を想定しているのに対し、MOX燃料は装荷後3サイクル※程度の使用を想定しています。 ※ 標準的なケースでは、1サイクル：13カ月運転＋3カ月点検 ウラン燃料のみを装荷していた際とMOX燃料を装荷した以降において、年毎の使用済燃料の発生量に大きな差はないものと考えています。
7月27日	境港市文化ホール	プルサーマル実施による、国全体のプルトニウム量はどのように減少するのか。	プルトニウムをMOX燃料として利用することにより、国全体のプルトニウムの保有量を減少させることに寄与することができます。 なお、保有量の減少割合は、各プラントの運転状況等に応じ変化することになります。
7月27日	境港市文化ホール	ライブ配信などは考えておられないとのことでしたが、広く説明するという事でしたらぜひ、ご検討いただきたい。	当日会場にお越しいただけなかった方にも、ホームページ上で、資源エネルギー庁および当社の説明箇所の動画、質疑の議事録についてご覧いただけるようにしています。 当社としては、いただいたご意見を踏まえつつ、引き続き、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組みながら、安全確保を最優先にプルサーマル発電の実施に向けた取り組みを進めてまいります。
7月27日	境港市文化ホール	もっと簡単な言葉で誰でも分かる言葉で資料を作成してください。	ご意見を踏まえつつ、引き続き、発電所見学会や広報誌、ホームページ等も含め、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組んでまいります。
7月27日	境港市文化ホール	米子市、境港市以外でも説明会をしてもらいたい。（日南町在住）	現時点で、当社主催のプルサーマルに係る説明会の追加開催の予定はありませんが、説明会という場に限らず、こうしたさまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう、引き続き、丁寧な説明・対話に取り組んでまいります。
7月27日	境港市文化ホール	海外の実績を謳っているが、現在は仏と蘭のみで他はコスト面などで行われていない。インドはMOX燃料方式ではなく、表に入れるには、注釈が必要。印象操作になる。	電気事業連合会ホームページ「プルサーマルの実施実績」資料は、（一社）日本原子力産業協会「世界の原子力発電開発の動向 2025年版」より作成されたものですが、各国でMOX燃料が実際に利用された実績があることを示したものになります。 本資料は、軽水炉で使用するMOX燃料の利用実績だけをまとめたものではなく、新型転換炉（ATR）、重水炉（PHWR）および高速炉（FBR）を含めたものになります。 なお、原子力発電所を継続して活用するか、廃止するかは、各国の原子力政策やエネルギー事情によって異なっており、一概には言えないと考えますが、日本のエネルギー基本計画では、使用済燃料を再処理し、回収されるプルトニウムなどを有効利用する原子燃料サイクルの推進が基本方針とされています。 プルサーマルの推進は、「エネルギー資源の有効利用」「利用目的のない余剰プルトニウムを持たないという国際公約の履行」「高レベル放射性廃棄物の減容化・有害度の低減」などの観点から極めて重要なものと考えています。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月27日	境港市文化ホール	石炭火力を推進すべき。安全性の上でも地域の理解が得やすい。資源的にも石灰は埋蔵量も多く、価格も安い。総合的に見て、原子力より低コストで運用できる。大崎上島で行われている実用化を進めて、IGCC+CCSを運用すれば、CO2削減効果に寄与する。	資源の少ない我が国（エネルギー自給率：16.3%、2024年度実績、経済産業省）においては、S+3E（安全性、安定供給、経済効率性、環境適合）を大前提に、個々の電源種（再エネ、原子力、火力等）の特徴を活かしながら、バランスの取れた電源構成としていく必要があると考えています。原子力は、2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、実用段階にある脱炭素化の選択肢として、再生可能エネルギーの拡大とともに持続的に活用していく必要があると考えています。
7月27日	境港市文化ホール	システム監視において、USB接続等、どこへアクセスしたか（誰が何をしているのか）など監視ソフトを使用しているのか。	原子力発電所の制御システムは、ファイアウォール等により多重に防護することにより、容易に侵入できない構造としています。また、社外のネットワークとは接続をせず、社外からの制御システムへのアクセスを遮断しています。
7月27日	境港市文化ホール	島根原子力発電所に関連して、裁判が行われていると聞いています。判決がでるまでは立ち止まるべきではないでしょうか。	島根1、2号機の運転差止めを求める訴訟および島根3号機の運転差止め等を求める2件の訴訟が提起され、現在、係争中です。当社としては、裁判官に原子力発電所の安全性を十分にご理解いただくことが最重要と考えており、法廷において引き続き適時・適切に対応していきます。
7月27日	境港市文化ホール	「DX」「GX」とあったがそもそもの意味が分からない。説明の前提として使用するのであれば、余白にでも説明しておくべきだと思います	DX（デジタルトランスフォーメーション）は、デジタル技術を活用し、ビジネスや生活を変革する取り組みのことをいいます。 GX（グリーントランスフォーメーション）は、化石燃料中心の経済・社会をクリーンエネルギー中心へ大きく転換することをいいます。 ご意見を踏まえつつ、引き続き、発電所見学会や広報誌、ホームページ等も含め、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組んでまいります。
7月27日	境港市文化ホール	2029年プルサーマル発電開始を目指すとしているが、2号機は40年以上の運転となり運転延長には、規制委員会など国の審査、許可が必要ではないか。運転延長の申請の判断もしておらず、許可も出ていないのに、プルサーマルはを2029年から始めると計画するのはおかしいのではないか。	島根2号機については、最大限活用していきたいと考えていますが、40年超運転については、特別点検を実施し、安全性を確認したうえで、供給面、経済面、環境面等を総合的に勘案して判断することとしており、現時点で決まったものではありません。40年超運転についても、プルサーマル発電の実施と同じく、地域の皆さまからのご理解が非常に重要であると考えており、適切な情報公開やご説明を実施してまいります。
7月27日	境港市文化ホール	40年以上の使用延長に「プルサーマル発電をすること」が入っているのか。	運転開始から40年を超える運転にあたっては、原子炉等規制法に基づく原子力規制委員会による長期施設管理計画の認可の他、電気事業法に基づく経済産業大臣の運転期間延長の認可を得る必要がありますが、プルサーマル発電の実施は関連しません。
7月27日	境港市文化ホール	プルトニウムを使うMOX燃料は危険性が高くなる。それを考えれば、プルトニウムを直接最終処分する技術を追求するべきではないか。イギリスでは、核燃料サイクルから撤退し、そのような技術もあると聞くがどうなのか。プルトニウムを使わない再処理ウラン燃料を作ることはできないのか	MOX燃料は、ウラン燃料と比べ、性質にわずかな違いはありますが、適切に設計・評価に反映することで、ウラン燃料と同様に十分な安全性を確保できます。したがって、プルサーマル発電を行うことによる運転の違いはなく、安全上問題となることはありません。 プルサーマル計画の推進は、エネルギー資源の有効利用、使用目的のない余剰プルトニウムを持たないという国際公約履行の観点等から極めて重要なものと考えています。 また、再処理によって得られた回収ウランを利用して燃料を作ることができます。（島根2号機で使用実績あり）

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月27日	境港市文化ホール	言えないこと（テロなど国家の機密に関わることなので言えないことは仕方ないと思ってます）、言えることははっきりといった方がいいと思う。	ご意見を踏まえつつ、引き続き、発電所見学会や広報誌、ホームページ等も含め、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組んでまいります。
7月27日	境港市文化ホール	再エネの発電抑制をしてまで原発を動かそうとするのは政策としておかしいのではないか。	資源エネルギー庁は、仮に原子力を先に止めて、太陽光を制御せずに使うとした場合、太陽光は時間帯などによって発電量が変わり、発電しない時間帯は火力電源でカバーすることになることから、国民負担の増加や、CO2排出量の増加につながるという見解を示しています。 このような点も踏まえて、広域機関において優先給電ルールが定められており、電力各社はルールに則った対応を適切に実施していると認識しています。 国民負担やCO2排出量の抑制と安定供給の確保を両立させながら、出力の調整が難しい再エネを最大限導入していくためには、水力や原子力などの「長期固定電源」をベースロードで活用しつつ、再エネの出力制御を行う必要があると考えています。
7月27日	境港市文化ホール	エネ庁に対して、40年超原発を許可するのは経産省ですが、中電に対して40年超の認可の条件としてプルサーマルの実施を条件としていませんか。	運転開始から40年を超える運転にあたっては、原子炉等規制法に基づく原子力規制委員会による長期施設管理計画の認可の他、電気事業法に基づく経済産業大臣の運転期間延長の認可を得る必要がありますが、プルサーマル発電の実施は関連しません。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月30日	米子コンベンションセンター	プルサーマルをする意義がわからない。安全性が高まるか、重大事故があった時に出る物質被害が軽くなるならばわかるが、そうでなければ無理にする必要はない。	プルサーマル計画の推進は、エネルギー資源の有効利用、使用目的のない余剰プルトニウムを持たないという国際公約履行の観点等から極めて重要なものと考えています。当社としては、プルサーマル計画について、地域の皆さまのご理解を賜りながら進めていけるよう最大限努力してまいります。
7月30日	米子コンベンションセンター	40年近い2号機ではなく新しい3号機でやってほしい。その方が安全っぽい。作った時にプルサーマルを想定していなかった施設ではないでほしい。	現在、MOX燃料の使用については、島根2号機で使用することで、国に原子炉設置変更許可を申請し審査を受けて許可を得ているところです。当社が保有するプルトニウム（約1.4トンPut）および、今後島根2号機と3号機で発生する使用済燃料の再処理により回収されるプルトニウム（当社割当見込量：約0.4トンPut/年程度）は、島根2号機で十分に消費可能（年間利用目安量：約0.4トンPut/年）と考えています。島根3号機については、現時点ではプルサーマルの実施は計画していないため、新規規制基準適合性審査に基づく原子炉設置変更許可申請においてMOX燃料の利用は想定していません。なお、島根3号機でプルサーマルを実施する場合には、国の原子炉設置変更許可を得る必要があります。
7月30日	米子コンベンションセンター	安全な運転をお願いします。	福島第一原子力発電所の事故の教訓を踏まえ、原子力規制委員会は、従来の原子力発電所の規制から大幅に強化した、新たな規制基準を策定しました。当社としては、「事故は起こりうるもの」という前提のもと、新たな規制基準に的確に対応することはもとより、新たな知見も踏まえながら、さらなる安全性の向上を不断に追及し、島根原子力発電所の安全確保に万全を期してまいります。
7月30日	米子コンベンションセンター	質問をした人の話は矛盾だらけ。説明された内容を聞いていればわかることを質問しているだけ。自分たちの考えに合わないことを間違いだと言っているだけ。理解されることはないと思うが、繰り返し説明をして、どちらの言うことがまっとうかを他の人にも示してあげてください。	当社としては、引き続き、発電所見学会や広報誌、ホームページ等も含め、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組んでまいります。
7月30日	米子コンベンションセンター	プルサーマルの稼働が40年超の条件ではないですか。	運転開始から40年を超える運転にあたっては、原子炉等規制法に基づく原子力規制委員会による長期施設管理計画の認可の他、電気事業法に基づく経済産業大臣の運転期間延長の認可を得る必要がありますが、プルサーマル発電の実施は関連しません。
7月30日	米子コンベンションセンター	説明会の開催はいつどのように告知されたのでしょうか。私は境港市で開催されたニュースを見て米子でも行われることを知りました。その後、中国電力のホームページで自ら情報を撮りに行き、会場にきました。このような状況では本当に住民に説明しようという姿勢は見えません。事故が発生した際の住民への周知は大大丈夫か心配になります。参加人数を見てこれで米子市民への説明は終えたとお考えなのでしょうか。	説明会の案内については、案内チラシの新聞折込・公民館配布・掲示依頼のほか、ケーブル各局（島根県内）のインフォメーション放送を活用した周知を実施しました。当社としては、引き続き、発電所見学会や広報誌、ホームページ等も含め、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組んでまいります。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月30日	米子コンベンションセンター	プルサーマル、原子力発電は安全という説明ばかりで、デメリットを正確に説明してくれていないように感じました。住民に説明するならメリット、デメリットの両方を提示してほしいです。また島根原発には2011年3月11日レベルの津波が来る想定で対応を考えて、その対応策も説明会で提示してほしいです。1000年前の古文書にそのような記述があったようです。同じような事故があれば、風向きの米子、倉吉は放射性物質で汚染されることが見込まれます。鳥取県民（特に境港市民、米子市民）に向けた説明会の回数を増やしてほしいです。	プルサーマルはエネルギー資源の有効利用により安定供給に寄与する一方で、使用済燃料のリサイクルを行うための再処理施設などが必要となることから、MOX燃料はウラン燃料と比較して費用は高くなります。しかしながら、原子力発電では、発電費に占める燃料費の割合が小さいため、MOX燃料の使用が原子力発電コストに与える影響は小さいものになります。 2024年度のコスト検証（総合エネルギー調査会）では、核燃料サイクル関連の費用は1.9円/kWhと試算されており、その内、MOX燃料の製造費用は0.1円/kWhと試算されており、原子力発電全体の発電コストに占めるMOX燃料製造費用の割合は約1%未満と試算されています。 福島第一原子力発電所の事故の教訓を踏まえ、原子力規制委員会は、従来の原子力発電所の規制から大幅に強化した、新たな規制基準を策定しました。 当社としては、「事故は起こりうるもの」という前提のもと、新たな規制基準に的確に対応することはもとより、新たな知見も踏まえながら、さらなる安全性の向上を不断に追及し、島根原子力発電所の安全確保に万全を期してまいります。 引き続き、発電所見学会や広報誌、ホームページ等も含め、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組んでまいります。
7月30日	米子コンベンションセンター	核燃料サイクルの考えの中に、いまだに「もんじゅ」がでてくる。研究中止になったものは考え直さないのか。過去の遺物に縛られていないか。新しい思考はできないのか。	エネルギー基本計画では、使用済燃料を再処理し、回収されるプルトニウムなどを有効利用する原子燃料サイクルの推進が基本方針とされています。 プルサーマル計画の推進は、「エネルギー資源の有効利用」「利用目的のない余剰プルトニウムを持たないという国際公約の履行」「高レベル放射性廃棄物の減容化・有害度の低減」などの観点から極めて重要なものと考えています。
7月30日	米子コンベンションセンター	フランスで実用化したウラン再処理・MOX燃料工場がなぜ日本で完成できないのか。日本で核燃料サイクルはできるのか。日本では技術不足なのか。	六ヶ所再処理工場で2006年から行われたアクティブ試験では、ガラス固化体の製造工程でトラブルがありましたが、日本原燃は対策を講じた上で、2013年までに、六ヶ所再処理工場で実際の廃液を用いた試験を行い、ガラス固化体の製造が適切に行われることを確認しています。これにより、再処理に関する技術的課題は解決されたと認識しています。 六ヶ所再処理工場及びMOX燃料加工工場は新規規制基準に基づく設工認等の審査および安全対策工事を進めています。 資源の乏しい日本においては、国の方針として原子燃料サイクルを確立して進めることとしており、しゅん工に向けて、再処理工場およびMOX燃料加工工場を運営する日本原燃に対して、メーカーを含む業界が一丸となって、オールジャパン体制で、全面的に支援していくこととしています。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月30日	米子コンベンションセンター	使用済MOX燃料の再処理の実験をしたらしいが、実用化では無限の再処理を考えているのか。ちょっと実験が成功しただけで本格的な再処理ができるのか。	使用済MOX燃料は、これまでに仏国のラ・アーグ再処理工場で約70トン、国内の東海再処理工場で約30トンを試験的に再処理した実績があり、使用済MOX燃料の再処理は技術的には可能であると考えています。 当社を含む原子力事業者（電力9社と日本原子力発電、電源開発の電力11社）は、使用済MOX燃料の再処理技術の早期確立を目指し、仏国のラ・アーグ再処理工場にて、使用済MOX燃料に関する再処理実証研究の実施に向けた取り組みを進めることとしました。使用済MOX燃料の再処理実証研究は、仏国のラ・アーグ再処理工場に国内で発生した使用済MOX燃料を輸送し、使用済MOX燃料の性状や再処理設備への影響等、使用済MOX燃料の再処理の実用化に向けて必要な技術的な知見を得るとともに、国内で発生した使用済MOX燃料が商業用プラントで再処理可能であることを実証するためのものです。 なお、第7次エネルギー基本計画（2025年2月18日閣議決定）において、使用済MOX燃料の再処理については、国際連携による実証研究を含め、2030年代後半を目途に技術確立すべく研究開発を進めるとともに、その成果を六ヶ所再処理工場に適用する場合を想定し、許認可の取得や実運用の検討に必要なデータの充実化を進めることとされています。
7月30日	米子コンベンションセンター	島根原発の点検要領に、複数人員によるダブル目視チェックは入れていますか。	原子力発電所では、人為ミス防止のため、作業内容に応じて複数人による確認や独立した確認を実施しています。点検・保守作業は手順書に基づいて行い、作業結果についても確認者によるチェックを行うなど、多重の確認体制により品質を確保しています。
7月30日	米子コンベンションセンター	説明会を聞いていると何の問題もないと言っている。福島事故以前と同じ安全神話の焼き直しではないでしょうか。事故は人災が一番影響が大きい。当事者たちの気のゆるみが感じられる。心に錆がついている。危機の錆以前にあなた方のそれを落としてほしいです。境港の説明会では安全のデータはまだないとのこと。それで安全をいうのはあまりに身勝手です。鳥取県への説明会ももともと計画がなく、鳥取県側からの要請によってようやく重い腰を上げられました。誠実さが認められません。運営も下手です。多くの方の意見を聞きたいと言っていたのに、特定の人たちとの応答になってしまいました。司会者の力量不足です。	福島第一原子力発電所の事故の教訓を踏まえ、原子力規制委員会は、従来の原子力発電所の規制から大幅に強化した、新たな規制基準を策定しました。当社としては、「事故は起こりうるもの」という前提のもと、新たな規制基準に的確に対応することはもとより、新たな知見も踏まえながら、さらなる安全性の向上を不断に追及し、島根原子力発電所の安全確保に万全を期してまいります。引き続き、発電所見学会や広報誌、ホームページ等も含め、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組んでまいります。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月30日	米子コンベンションセンター	住民がプルサーマルの受け入れ可否を判断するにはその必要性和危険性の両方を天秤にかけて検討する必要があります。説明会では必要性や通常運転時の安全性が強調されましたが、非常時の最悪のリスクについては十分な説明がなく、これでは判断のしようがありません。ウクライナやイランにおいて原発や関連施設への攻撃が現実のものとなった今、ミサイル攻撃や破壊工作、想定外の巨大自然災害によって燃料プール火災が起きた場合のリスクや被害想定についても誠実に説明していただく必要があります。燃料プール火災が発生すれば、被害や避難の範囲は100kmを超え、鳥取県全域に及びます。UPZの市だけでなく、同様のリスクを負う鳥取県全域において、こうした破局的リスクも含めた誠実な住民説明会を改めて開催することを強く求めます。	燃料プールの冷却に関しては、新規制基準への対応により、大量送水車による注水等、燃料プールによる冷却が失われた際のバックアップ注水手段を大幅に強化しました。更に、配管のサイフォン現象による冷却材漏えいに対して、漏えいしないよう対策を行いました。 また、これらの対策の有効性の評価も行っており、燃料プールで冷却機能が喪失するといった、規制で要求される状態を想定しても、燃料は露出することなく、十分な時間余裕を持って事象は収束させることができることを確認しています。なお、本評価ではMOX燃料についても考慮しています。 加えて、当社では自主対策として、原子炉から取出し直後の崩壊熱の高い燃料体は燃料プールで近接させないように分散させて配置、保管することとしています。 もともと燃料プールには大量の冷却水があり、冷却機能が喪失した際の対応には時間余裕があったのに加え、新規制基準下で講じた対策により、冷却維持機能は大幅に頑健性を増している状態にあります。 当社は、このような状況を鑑み、燃料プール内のセシウム137等の量の評価は行っており、今後評価する予定もありません。 なお、使用済MOX燃料と使用済ウラン燃料の発熱量は同等であり、燃料取出後1年程度経た後には、いずれの発熱量も十分減衰します。これらのことから、使用済MOX燃料を燃料プールに保管することで、特段リスクが高くなることはありません。 引き続き、発電所見学会や広報誌、ホームページ等も含め、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組んでまいります。
7月30日	米子コンベンションセンター	MOX燃料とウラン燃料を同時に同じ原子炉で使ってもいいものですか？この2つの燃料の性質などが異なっているように思うためです。	ウラン燃料とMOX燃料を同時に装荷する炉心については、MOX燃料の特性を踏まえて、安全性の基準を十分に満足するよう、燃料の配置や組合せを決定することとしており、ウラン燃料のみを使用する場合と安全性に差はありません。 なお、国内外においてウラン燃料とMOX燃料を同時に装荷した炉心での運転実績は十分にあります。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月30日	米子コンベンションセンター	鳥取県にはウラン残土問題があり、50年ほど前の子供のころから放射能は恐ろしいと思っていました。また原子爆弾の恐ろしさは刷り込まれています。福島原発事故により、原発の安全神話は崩れ去りました。それは私にとって東電、日本政府への大きな不信感を生みました。中国電力は東電とは別会社ですが、この度のプルサーマル発電にあたり、①そもそも原発の安全性、不安全性は何ですか。②福島の事故の原因は何で、中電はどう改善、対処を行っているのか。③避難経路について、具体的な計画はいつ、どのように広報されるのか。④使用済MOX燃料は島根原発で保管されるのか。また使用済ウラン燃料とあわせて保管総量はどれくらいになるのか。⑤ウラン燃料、MOX燃料合わせて原発をなぜ推進するのか。これらを明らかにしてほしい。住民としてはその回答をもとに議論をする。	①原子力発電所は運転に伴って放射性物質が発生するため、事故の発生を防ぐとともに、万一事故が発生しても被害を最小限に抑え、事故の進展を止められるように、「原子炉を止める」「炉心を冷やす」「放射性物質を閉じ込める」を安全対策の基本としています。原子力発電所では異常な事態や事故の発生を防止するだけでなく、仮に発生したとしてもその拡大を防止するため、複数のレベルに分けた対策（深層防護）を講じており、その中で、止める・冷やす・閉じ込めるの機能を確保することで、安全性を確保しています。 ②福島第一原子力発電所事故は、津波襲来に伴う非常用電源の故障によって電源が使用不可となり、原子炉が冷却出来なくなったことが原因です。島根2号機においては、津波防護対策に加え、緊急用電源として多様なバックアップ手段を確保しています。 ③島根地域の関係2県6市（島根県、松江市、出雲市、安来市、雲南市、鳥取県、米子市、境港市）には、避難計画を策定いただいております。それらの避難計画や関係機関の緊急時の対応を含む「島根地域の緊急時対応」が具体的かつ合理的であるとして国に了承（2021年9月）されています。お住いの自治体から避難の流れなどがホームページやパンフレットで周知されています。 避難計画については、新たな知見や訓練等の検証を踏まえ、住民避難の実効性向上が図られていくものと認識しており、当社としても最大限対応してまいります。 ④使用済MOX燃料は、使用済ウラン燃料と同様に、再処理工場に搬出するまでの間、島根2号機燃料プールにて安全に保管管理します。 2026年7月末現在、使用済ウラン燃料を島根1号機で722体、島根2号機で2,196体、それぞれの燃料プールで保管管理しています。 ⑤国のエネルギー基本計画では、使用済燃料を再処理し、回収されるプルトニウムなどを有効利用する原子燃料サイクルの推進が基本方針とされています。 プルサーマル計画の推進は、「エネルギー資源の有効利用」「利用目的のない余剰プルトニウムを持たないという国際公約の履行」「高レベル放射性廃棄物の減容化・有害度の低減」などの観点から極めて重要なものと考えています。
7月30日	米子コンベンションセンター	事業を営む上で、信用、信頼が第一だ。中国電力にはそれが欠けている。	島根原子力の運営にあたっては、安全性の確保はもちろんですが、地域の皆さまのご理解と信頼が何よりも重要だと考えています。 発電所の見学会や地域の会合等を活用させていただき説明会（地区説明会）、日常的な対話活動のほか、当社ホームページでのお知らせ、広報紙の発行など、様々なメディアを活用した広報活動等を通じて、原子力の必要性や安全対策の実施状況等についてお知らせしているところです。 理解活動に終わりはなく、今後も引き続き、様々な機会を通じて当社の取り組みを分かりやすく丁寧にご説明し、より多くの地域の皆さまにご理解を深めていただけるよう努めてまいります。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月30日	米子コンベンションセンター	MOX燃料にするメリットが十分ではない。国の方針に流されているだけだ。プルサーマルを進めても六ヶ所村の完成もいつになるかわからない。電気料金も上昇するのではないか。熊本でも地震があったが、島根原発は活断層の上にあるが地震の対処はできているのか。プルサーマル導入以前の話ではないか。	島根2号機については、新規制基準への適合性について審査を受け、地震や津波等の自然災害への対策等を実施し、再稼働しています。 プルサーマル計画の推進は、「エネルギー資源の有効利用」「利用目的のない余剰プルトニウムを持たないという国際公約の履行」「高レベル放射性廃棄物の減容化・有害度の低減」などの観点から極めて重要なものと考えています。 資源に乏しい日本は、そのほとんどを海外からの輸入に頼り、自給率はわずか16.3%（2024年度実績：経済産業省）です。日本にとってプルサーマルは、長期的なエネルギー資源の確保、すなわち、皆さまに安定して電気をお届けするためにも、必要な取り組みの一つであると考えています。 原子力発電では、発電費に占める燃料費の割合が小さいため、MOX燃料の使用が原子力発電コストに与える影響は小さいと考えています。
7月30日	米子コンベンションセンター	島根原発2号機の現状について、2025年、2026年に事故やエラーが何回か起きている。今後も大小さまざまな事故が発生するのではないかと不安を感じる。大規模災害が起きた時に安全といえないのではないかと不安を感じる。事故後の再発防止はもちろん大事だが、事故が起きないための予防策もっと必要だと思う。災害だけでなく天候などもっと様々な環境を考慮してメンテナンスをした方が安全・安心だと思う。	地域の皆さまをはじめ、多くの関係者の皆さまにご心配をおかけしたことをお詫び申し上げます。 当社としては、協力会社とともに、策定した一つ一つの再発防止策を確実に実施し、発電所の安全管理に万全を期してまいります。 自然現象として、洪水、風（台風）、凍結、降水、積雪、落雷、地滑り・土石流、生物学的事象についても考慮し、発電所周辺状況等を踏まえ、個別に評価を実施しています。
7月30日	米子コンベンションセンター	リスク＝発生確率×被害の大きさ リスクについて、原発と他の事故や災害のリスクとの比較も示せるとよい。 被害の大きさは、批判者は際限なく主張する。 発生確率が低減していることをわかりやすく説明すべき。 情緒的でわからない人にはわからないという印象を受けた。どうするか。	新規制基準適合性審査においては、あらゆる事故シナリオ（事故シーケンス）を網羅的に定量評価する確率論的リスク評価を実施し、重大事故等対処設備の有効性を評価する事故シーケンスを設定しています。 なお、新規制基準に基づき整備した重大事故等対処設備等を考慮した確率論的リスク評価は、今後、安全性向上評価制度の下で実施していくこととしています。
7月30日	米子コンベンションセンター	時間の制限なしでお願いします。聞くだけで来ているのではなく、質問したい人がたくさんいるので。丁寧な説明といわれているので、何回も開催してください。被ばくするかもしれない、人の命に係わることです。	これまで開催した説明会では、多くの方からご意見・ご質問をいただいたことから、いずれの会場においても、事前にお知らせしていた終了予定時刻を延長のうえ、可能な限りご回答させていただきました。また、時間の都合上、会場にてご質問いただけなかった方や、その場ではご質問されなかった方からもご意見・ご質問をお受けするため、アンケートにご記載いただき、ホームページ上にてご回答させていただく形を取っています。 また、当日会場にお越しいただけなかった方にも、ホームページ上で、資源エネルギー庁および当社の説明箇所の動画、質疑の議事録についてもご覧いただけるように準備を進めているところです。 引き続き、発電所見学会や広報誌、ホームページ等も含め、さまざまな機会を通じて、多くの皆さまにご理解を深めていただけるよう取り組んでまいります。

開催日	開催会場	ご質問・ご意見	回答
7月30日	米子コンベンションセンター	資源エネルギー庁への質問：資料の中で、第7次エネルギー基本計画の中で「雇用の維持や値上げも困難になるため」とありますが、どうとらえるといいですか。	DX（デジタルトランスフォーメーション）やGX（グリーントランスフォーメーション）の進展による電力需要増加が見込まれる中、それに見合った脱炭素電源を十分確保できるかが我が国の経済成長や産業競争力を左右する状況にあると考えています。世界では、脱炭素を経済成長に結実させるべく、脱炭素分野での投資を加速させるダイナミックな変化が発生しており、脱炭素電源が十分確保できなければ、国内投資や経済成長の機会を逸することとなり、雇用の確保や賃上げも困難となり、国民生活にも大きな影響を及ぼすことにもなりかねません。
7月30日	米子コンベンションセンター	熊本地震が起きました。日本はどこで地震が起こるかわかりません。島根原発は地震対策は大丈夫ですか。	島根2号機については、新規制基準への適合性について審査を受け、地震に対しては、機器・配管等の耐震安全性の裕度を高めるため、耐震補強工事を実施しています。また、今後、新たな知見が得られた場合には、当社としても検討・評価を行った上で適切に対応してまいります。

説明会の運用に係るご意見については、今後の参考にさせていただきます。